

あこら

282号

「この日本」を女が変える 地域から変える

“問答無用”から“都民が主役”へ 樋口恵子

私が立ちます。変えます。そして地域を守ります。

吉田貞子 鈴木勢子 星野邦子 増村秀一 たにうち清子

志麻愛子 尾崎憲子 広岡たつみ 小野きみ子 佐藤ひろこ

大河みと子 山本ひとみ 宮沢友子 清水絹代 阿部悦子

辺境より撃つー市町村合併に見る地方自治のゆくえ 増村秀一

イラク侵略戦争に抗議する



しまよつこ 橋本幸子 服部 素 桑江テル子 城内治美 山田千代子 吉田貞子 志麻愛子 谷内清子 星野邦子
小野きみ子 阿部政雄 綿津靖子 斉藤美栄子 奥平せい子 シャロン・キンセラ 柳沢つや子 馬光子 綿津陽子

「この日本」を 女が変える 地域から変える

私が立ちます。変えます。地域を守ります。……………

巻頭言 “問答無用” から “都民が主役” へ…………… 樋口 恵子 1

「この日本」を 女が変える 地域から変える …………… 2

私が立ちます。そして地域を守ります。…………… 6

吉田貞子 鈴木勢子 星野邦子 増村秀一 広岡たつみ 志麻愛子 たにうち清子

尾崎憲子 小野きみ子 佐藤ひろこ 大河みと子 山本ひとみ 宮沢友子

清水絹代 阿部悦子

辺境より撃つ—市町村合併に見る地方自治のゆくえ…… 増村秀一 36

イラク侵略戦争に抗議する …………… 52

しま ようこ 橋本幸子 服部 素 桑江テル子 城内治美 山田千代子 吉田貞子

志麻愛子 谷内清子 星野邦子 小野きみ子 阿部政雄 綿津靖子 斉藤美栄子

奥平せい子 シャロン・キンセラ— 柳沢つや子 馬上光子 綿津陽子

■めじゃーなりすとのめ 選挙も戦争も「消費」にするな …………… 小平百恵 72

■語りかけたいあなたへ 51 夢のまた夢 …………… 大里知子 74

■TOPICS ついに開戦 イラク侵略戦争/教育基本法改悪へ ほか …………… 76

■あごらのあごら 松井やよりさんの「地の塩賞」/東京に女性知事を ほか …………… 78

“問答無用”から“都民が主役”へ

樋口恵子

敗戦の痛みもしばし忘れたり　花吹雪浴び投票に行く

悩みに悩み、決断ぎりぎりまで追い込まれた時、ふと思ひ浮かんだのがこの藤田たき先生（当時津田塾の塾長）の三十一文字でした。

今年もまた爛漫たる春がこようとしていました。その季節の喜ばしい予感の中で、私の胸にはもう一つの、悪い予感もあつたのです。それは、戦争への予感であり、民主主義が根底から腐敗し崩壊していくことへの恐怖でした。

私は東京に生まれ、東京に育つたものです。東京で子どもを産み、東京で親と夫の介護をしました。東京を拠点に活動してきました。私の人生は東京とともにあります。

しかしながらこの大切な東京がここ四年間、自由闊達にもの言えない息苦しいまちになってしまいました。この四年間、東京の変化はいつも問答無用で、突然上から降ってきました。高圧的で、弱い立場にいる人びとに配慮のない発言が続きました。「ババア発言」もその一つです。

しかし私は、そのことだけで決断したわけではありません。対立軸のない、争点のない選挙のあり方は、民主主義を崩壊させるという深い深い危機感からでした。さらに、この人生百年時代、日本の首都東京を、安心して子どもを産み、充実した老いを過ごせる「人間の都」に取りもどさなければ、日本人の生命そのものが崩壊すると思つたからです。

七十歳になつての決断でした。

あれから五日、事務所はボランティアで沸き立ち、沿道には多くの人が集まってくれています。握手を求める老若男女は跡を絶ちません。

今こそ民主主義のために、みんなの輪が必要です。

「この日本」を 女が変える。地域から変える。

戦争の記憶を今も深い傷として持つ日本人は、イラクに対する武力攻撃を憂慮し、その実行をとどめようと心を尽くした。しかし三月二〇日、非情の空爆は始まり、時々刻々のテレビの画面に胸のつぶれる思いをしている。

『あごら』二八一号『今こそ言おう戦争は「ノー」！』で、ダグラス・ラミスさんや酒井啓子さんが予見しておられたとおり、ブッシュさんの「既定の計画」は、国連のあらゆる反対を排除して実行された。

息を詰めてその経緯を見まもっていた日本人にとって、最も屈辱的だったのは、日本の首相の態度だった。「戦争で失われた多くの生命と引きかえに憲法九条を持った日本は、いかなる国のいかなる戦争も支持できません」と、決然として言い続けてほしいという期待に反し、首相は「米国支持」を打ち出した。

それは、「米国の忠犬」としか映らず、多くの米軍基地を領土内に持つ日本は今も被占領状態にあることを、改めて思い起こさせた。

せめて日本が「米国の忠臣」あるいは「米国の親友」であったのなら、口をきわめて、その「非行」、その「愚挙」をいましめたに違いない。

米国の大統領は、イラクを「民主主義国家にすること」を大義名分にしており、「日本の占領政策を踏襲する」と公言している。このことも日本人の心をどれほど傷つけていることか。

たしかに敗戦がなければ、傲りをきわめた日本軍部は崩壊しなかっただろう。しかし、軍部に對する反感は、戦前も戦中も国内に満ち満ちており、それは一つの論理を持っていた。

敗戦後の再建は、その論理を心に刻んでいる日本人の手だけで十分可能だったと思う。

日本人は、いまだに「文明開化」が「帝国主義」に移行していった日本国の歴史的経緯を十分に検証していない。だからこそ、首相は平然と「靖国」に参拝する。もしも敗戦と同時に全面自治が確立していたら、当然「戦犯」は、日本人自身の手で告発されたであらうし、その検証の過程は、「あるべき日本」「望まれる社会」の論議の基本となったであらう。

「六千年の歴史を持つイラク」ほどではないが、「二千年の歴史を持つ日本」の日本人は、それなりの誇りがあつた。「誇りに耐える国」を再建の眼目の一つにしたということも考えられる。

今の日本のただならぬ退廃を見るにつけ、「この日本」は、もはや根底から創り変えなければ、という思いを深くする。「忠犬」から「人間」に復帰するためには、まず軍事同盟Ⅱ日米安保を終わらせ、日米友好条約を結ぶことである。日米安保は、日米どちらからでも通告をすれば、一年後に終了するが、廃止派が国会の過半数を占めないかぎり、実現は難しい。

そのチャンスとなる次の総選挙の帰趨は、今年の統一地方選にかかっている。「国」を一挙に改革するのは至難のことだが、ひとつひとつの「地域」からの変革は比較的容易であり、それは必ず国の変革へ連動する。今ほど「地域」が問われている時はない。

もう一つの改革の主役は「女性」である。女性が選挙権を持つようになって五六年を経過したが、女性の意志は必ずしも選挙の結果に結実していない。女性が一票を投じたい人物の立候補が

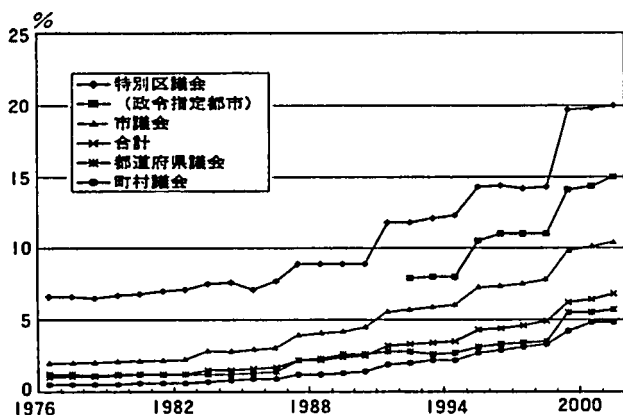
僅少だったことが大きな原因である。

今年の地方選には、多くの女性候補が立つ。在来の男性型思考にとらわれない、しなやかで斬新な発想は、腐臭を発し始めた「この日本」を変革する大きな力になるだろう。

私たちのへあごらメイトも、四月選挙に十五人（うち新人は二人）が立つ。選挙前の超多忙なか寄せてくださったそれぞれの思いには、地域を愛し、その地域の改革に貢献した熱意と自負が溢れている。この見事な人材の全員当選を心から祈りたい。その時日本は、確実に脱皮するだろう。

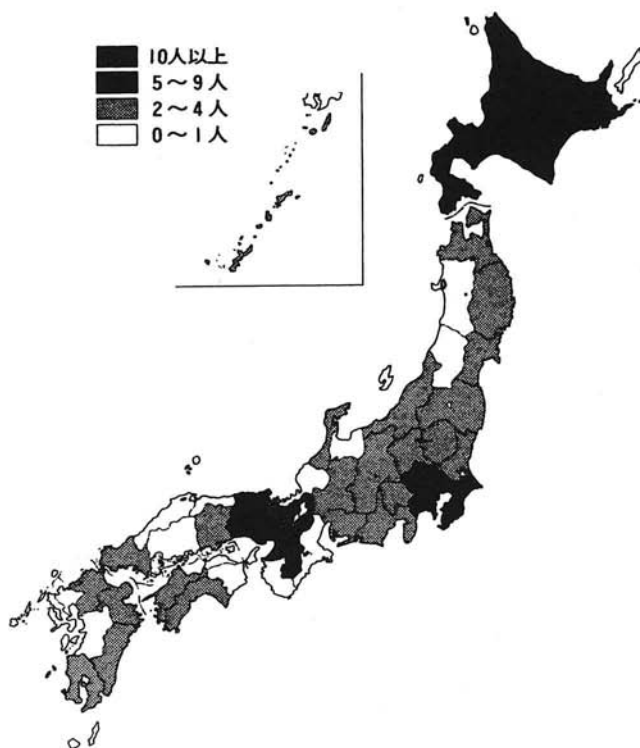
以下にご紹介する十五人も、十三人が無党派で社民、民社が各一人ずつ。（九九年四月選挙にはへあごらメイトは十二人立ち、十人が当選。その中の岡山市・市議の横田悦子さん・下市このみさんは、今回は選挙が三月に繰上げとなり、すでにお二人とも当選された。お二人揃って無党派。前回より約五割も票を伸ばしての画期的上位当選だった。

着実に増え続けている地方の女性議員



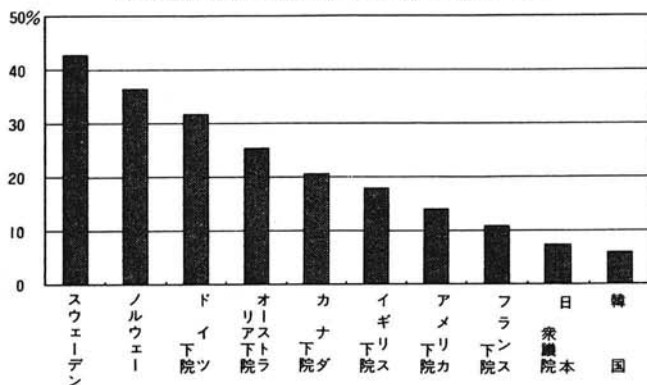
各政党とも国会議員には女性を立てる計画がふえているが、地縁・血縁の絆の強い地方では女性の立候補はまだ難しい。しかし、町村議会でさえも、毎回女性の当選者は増えている。今回は特に大幅な増加が期待されている。

都道府県議会の女性議員数



九九年選挙当時は女性議員ゼロの県が一〇県もあり、新潟の倉元正子さんが「女性ゼロ県をゼロに！」運動を呼びかけ、全国の女性の熱い思いの中で、一〇県が二県（山形・広島）に減少した。とはいえ、まだ「女性議員一名のみ」が十三県もある。今回の選挙でこの地図を「全面黒」に変えたい。

国会議員数では日本は世界最低レベル



衆参両院とも女性議員の数は少しずつ増えてはいるが、世界では最低の部類。「政治は男」の日本。

〈あごろ〉を心の支えに白石市議に二度目の挑戦

宮城県白石市・市議 吉田貞子

仙台から一時間、白石市で市議をしています。春の統一自治体選挙で白石市議会議員二期目に挑戦いたします。補選当選でしたので二年半という短い期間でしたが、とにかく勉強と思い、一人会派〈未来・女性の会〉を結成し、議会報告を出し、できる限り手づくり・手配りで、市民のみなさんに訴えてきたつもりです。

前回は、無所属でしたが、今回は、社民党公認で立候補します。

『あごろ』三〇周年記念の席上でもお話ししましたが、有事故制反対の女性キャラバンなどを社民党で行動してきました。その分、地元から「姿が見えない」とか、「私のところにこないのはあなただけ」などおしかりをいただいています。

また、このところ、無党派でご活躍の上越の鈴木勢子さんのみならず、各地で社民党自治体議員へのいやがらせも耳にします。選挙にむけて、アレやコレやの手を使って、民主主義、平和主義の陣営の崩壊をもくろんでいると感じます。何とか勝って、この流れを変えたいと思います。

白石市は人口四万人・蔵王のふもとの市です。面積が約二六〇平方キロメートルあるところから、水道・下水道の完備がむずかしく、仙台市への通勤一時間以内とはいえ、一人あたりの所得は低く、高齢化率は二〇〇二年一〇月現在で二四・二パーセントになってしまいました。

その中で、公共事業に力を入れ、公債額が増大し、半分は交付税措置といいながら、いつ財政

破綻してもおかしくない状況です。現市長は五期目に入り、議会を牛耳っている印象です。毎日、「活動に先立つ苦勞の山」という状況だけに、『あごら』の継続の報を聞き安心いたしました。

私の中では、議員としてがんばれる心の支えの一つが『あごら』です。また、『あごら』に出会えたことで、議員となる決心をしたとも言えます。読者をふやす努力をしていきたいと考えています。私の悪い性分で、一つずつしか実行できません。自分の中で『あごら』強化月間を設定してみたいと思います。『あごら』の継続にあたっては、三船さんさんとメールで何回かお話ししてきました。今後とも連絡をとりあって、少しでもお役に立つようにしたいと思います。

未来に走る
元氣な女性の力で！



★吉田さんは、『未来・女性の会議報告』に、「私は採決となると、はからずも汗が流れてきます。市民の方がたにとって本当にこれでよいのかと自分に問いただすからです」と書いていましたね。貞子さんの登場で、住民主体の政治を実感した市民は多いと思います。「安心・クリーン」な社会を創りたいという貞子さん、夢に向かって二期目の活躍を期待しております。

(三船照子)

弱小差別とたたかいぬきます

新潟県西頸城郡青海町・町議 鈴木勢子

富山県の県境の企業城下町で町会議員として孤軍奮闘。四期目に挑戦します。

昨夏。個人的な議会報告『町政レポート』に「なれあい議会」と書いたために、町議会が〈町政レポート調査特別委員会〉まで設置して徹底糾弾、猛烈なバックラッシュに苦しめられていることは、『あいら』二七八号で報告したとおりです。

過日、斉藤千代さんから「WINWIN」（女性の立候補者に助成金を出す女性団体）に、創設当初から「国会議員だけでなく地方議員にも助成金を」と要望していたけれど、今回の統一地方選挙から、初めて地方議員にも対象が拡大されることになったので、あなたを推薦したい」と電話がありました。しかし、「WINWIN」が今度推薦を拡大した範囲は、「政令指定都市の区議、市議、首長まで」で、町村議選はダメということがわかりました。

近年、町村議会選挙で無投票が続くのは、議員報酬が少ない（私の場合、月額一九万四千円）うえに、選挙の公的補助がほとんどないため、立候補しにくいという背景があり、特に若い世代の候補者が少ない状況です。そのことが議員資質と直結し、国政選挙へとつながっていることは言うまでもありません。

ひと口に、地方議会選挙といっても、市議会と町村議会との差は歴然で、町村議会の場合、選



卒業書八〇〇枚の郵送料四万円のみが公費で、他はすべて自費です。一方、市ですと、すぐ近くの糸魚川市でも、市議選に二〇〇万円くらい出ます。この額は私の住む新潟県内では少額のほうですが、ポスター・チラシから車の燃料費まで公費負担があります。日のあたらぬ小さな地方議会にも推薦を拡大してこそ意義があるのではないのでしょうか。

しかも町村では、いま急速に進められている合併により、女性が議会に出ていくことがますます困難になっています。たとえば上越市議会（定数三〇名）の場合、近隣の町村との合併で四〇名になりますが、編入合併なので上越市議三〇名はそのまま、残り一〇議席の枠を一〇を超え

る町村で振り分けることになりました（任意協議会で決定）。つまり、一つの町村で一議席ですから、自民党党籍の女性でも当選は困難ということでした。新潟には（あごらメイト）の町村の女性議員が多く、みんなすばらしい活動をしています。合併により当選が非常に厳しくなります。これはもちろん、私にも当てはまることです。私の住む青海町は、ありがたいことに能生町・糸魚川市と対等合併です。ので、頑張りしだいでは当選できる可能性があります。

私は女の活動の中でも、中央志向による「差別」が存在することを実感してきました。いまのイラク侵略でも、まさに「巨大」による「弱小」差別ですね。ジエンダーだけでなく、あらゆる差別解消に、私は生涯をかけたと思います。

突然ですが、そして男ですが、市議選に立ちます

新潟県糸魚川市 増村秀一

市町村の合併論議は、全く不合理な「国策」だと思います。現政権の延命策と同時に、統治機構の再編と思われれます。

「大きくまとめて支配しよう」。

そこには、住民自治や、地方自治体の視点が、まるでかえりみられていません。支配階級にとって、「自治の精神」など、むしろ厄介な代物に過ぎないでしょう。

地方行政の類廃ぶりも、目に余るものがあります。ヴィジョンなき合併に、雪崩を打つように突き進んでいます。創造的な取組みも、自助努力もまるでない。しかも住民不在の政治がまかり通っています。

政治は住民意識のバロメーター。地方の意識の低迷ぶりも困ったものです。伝統的かつ閉鎖的な辺境のモラルは、前近代的な土壌に人びとを縛りつけています。糸魚川市は市議会に女性議員がゼロ。今度立候補する女性も、ワケのわからぬ方。つまりは人材も貧しいのです。

突然ですが、市議選に出るつもりです。ジバン・カンバン・カバンなしの、「市民派」選挙を理想としても、「地縁」「血縁」ガンジガラメの部落選挙であってみれば、勝つ見込みは全くありません。

イラクの戦争、毎日が憂鬱です。

毎日、人が殺されている。

ブッシュは、ステューピッドを通りこして、クレイジイです。それにしても、アメリカのファシズムはどうしたことか。更に又、ブッシュのボチどもの、みにくさ、いやらしさ、おぞましさ。川口なんとか、小泉何とか、日本の支配階級のお粗末さよ。

ペンがどこまで有効なのか？

デモがどこまで有効なのか？

糸魚川では、デモすらなりたたない。

〈あごろ〉さん、がんばって下さい。

地方の女性たちのためにも、がんばって下さい。

隣の青海町では、鈴木勢子さんが孤軍奮闘でがんばっておられます。

四月の選挙、僕も、どこまで行けるか、自分との闘いです。

「連帯を求めて、孤立を恐れず」なんてカッコいいけど、孤独の闘いです。

〈あごろ〉がんばれ

無党派、がんばれ

応神村が大好きです

新潟県北魚沼郡応神村・村議 星野邦子

日光に生まれて育ち、雪深い応神村に生まれました。

五年前、村議の補欠選挙に突然押され、わけもわからないまま出ました。後でわかったことですが、それは村長派と反村長派、村を二分する選挙だったのです。四八歳、村に地縁も血縁もない私が候補に推された理由は、たった一つ。私が「女」だったからです。「女だから、あとで利用できるだろう」という考えだったことがわかったのは、時間がたつてからです。

一年後の通常選挙でまた当選。それから四年。今年が正念場ですが、ムラのもろもろのしがらみがわかってみると、今度は容易ではないと……。四月二十七日が選挙というのに、事務所をどうするかという打ち合わせを開くのがやっと四月の五日です。

でも、私は応神村が大好きだから、男も女も、大好きだから、立ちます。

「自分に厳しく人に優しく」を躰られた日本人の良さを取り戻したい。
目のキラキラした若者のいる地域にしたい。

貧しくても昔はたくさんいましたね。あんなムラにしたいのです。

男もひと。女もひと。男と女がいて自然なのです。

議会にも半分は女のひとがいてほしい。

男と女で力を合わせて、新しい視点で政策を提言し、大好きな応神村を、もつともつと大好きな村にしたいと思います。



■星座||^{しし}蝎座 ■血液型||O型
■好きな色||黒 ■趣味||園芸
■好物||納豆||カス||テラ||茹煮物
■座右の銘||良心に従い生きている

現場と現状を知る女性の力で

いのちを守ります

富山県・県議

たにうち清子

四年前、皆様の熱い応援で女性県議ゼロ県の汚名を、三三年ぶりに返上。以来、四年間、無我夢中で県政に励みました。これからは、更に未来も見つめながら、地域から日本を変え、日本を守っていきたいと思っています。

いま緊急に解決が迫られているゴミ（環境）・子育て・介護（少子高齢化）の問題は、二十一世紀社会の最重要課題です。これらの課題の多くは女性が担っています。机上論ではない体験こそが、未来を切り開く知恵。現場からの生の声を受けて政治に実現させます。

二十一世紀の主役は地域の住民です。その一人ひとりが納得できる政治をします。

富山県は、県民一人あたりの借金が八三万円にも及ぶ苦しい財政です。

公共事業費・総務費・議会費などを見直し、教育・福祉・環境・防災関係の予算は守りぬぎます。

そのためには、ガラス貼りの県政を。議会の窓を開いて風を送り、情報を公開します。

少子化対策の基本は、仕事と家庭の両立です。自らの体験と、多くの女性の声を、具体的な施策に活かします。そして、何よりも「決して戦争に関与しない平和な日本」を築きます。

地域の、足もとからの活動こそ、日本を浄化する力になると信じます。（富山県高岡市在住）

「たにうち清子」を守り抜こう!

いろんな社会の枠組みが変わろうとしている今、現場を知っている女性たちの意見を聞かないでどうやって改革していくのでしょうか。

現場を知らずしての政策は机上論、もはや限界です。

もっと女性の声を県政に!

今、私たちの身近で、緊急に解決が迫られている「三(環境)の問題、子育て・介護・少子・高齢社会の問題は、二十一世紀社会の最重要緊急課題であり、最も改革が求められているところ。これら課題の多くは女性たちが現場を担っています。例えば町内会やPTA会長は男性であっても、実際に現場で動いているのは女性です。介護においても勿論圧倒的に女性が担っています。

いろんな社会の枠組みが変わろうとしている今、現場を知っている女性たちの意見を聞かないでどうやって改革していくのでしょうか。現場を知らずしての政策は机上論、もはや限界です。女性たちが培ってきた今までの体験こそが未来を切り開く知恵になります。

「たにうち清子」は、生活現場からの生の声を受けて政治に提案してき



ています。四年前やっと開いた県政への女性の声の一筋の道です。谷内県議を守り抜いて、もっと大きな街道にしましょう。人口の半分は女性です。もっと女性の声を県政に!

情報公開を進めよう……
ガラス張りの県政を!

市町村合併などの話題と共に、住民投票、住民自治などが盛んに言われ、二十一世紀はまさに地域の住民が主役になる時代だ!と感ぜさせます。住民参加、参画のために、政策、そしてわかりやすい税金の使い道など、情報公開が求められることが絶対必要です。

いま、県の財政は県民一人当たりの借金が八十三万円にも及びつつ迫った状況です。貴重な財源をもっと有効に活用しなければなりません。教育福祉、環境、防災関係の予算は減額できず、公共事業費、総務費、議会費などを見直し、政治の優先順位を二十一世紀型に変える必要があります。

議会は、政策提案と同時にチェック機関であり、情報公開、ガラス張りの政治が求められます。

「たにうち清子」は『清子つうしん』やインターネットのホームページで情報公開してきましたが、この影響は県内の女性議員は勿論、男性議員にも広がり、政治を身近に感じにくれる市民を増やすすい動きとなつていきます。女性議員は、全国的に議会の窓を開いて風を送り込む役割も果たし、政治を変える力は私たち自身の中にあることを再認識させる輪を広げていきます。

仕事と家庭の両立社会を!

今最大の関心事はなんと言っても「少子化」です。少子化がこのまま進めば、労働力、税収、介護年金……など今の日本社会の仕組みは動かなくなります。

富山県では既に全国に先駆けて人口減少が始まっており、高岡市では

特にこの問題が深刻です。ようやく

国の方でも、少子化対策が目立つようになってきましたが、もっと根本的に家庭と仕事の両立社会をつくる必要があり、子育て、介護と家庭の分野を担ってきた現場の女性のより多くの声を入れて新たな社会を構築していくべきです。まさに、二十一世紀の政治には、より多くの女性議員が求められており、谷内県議は、貴重な紅一点なのです。是非「たにうち清子」を守り抜いて、もっと女性の声、生活者の声を届け、いきいきと安心して暮らせる社会をめざしましょう。

女性県議

昭和22年、池淵正氏が氷見郡で県内最高得票の1万416票で当選したが、二期目は落選。それから4年後の昭和30年に富山市から上嶋タミ氏が当選し三期、昭和42年まで県議として活躍した。

以後4年前の平成11年までの32年間、富山県は「女性県議ゼロ」だった。谷内清子さんは、高岡市で初の女性県議。

history

一期目四年間の学習を結実させたい

富山県高岡市・市議 尾崎のり子

一九九九年の統一地方選で市議会議員になりました。

富山県に女性の県議会議員が三二年間もないということで、無所属の議員を出すために県議選と市議選をペアで戦おうということになり、突然立候補を要請されたのです。

三月三日から（私が決意したのは、三月二日です）選挙戦が始まりました。選挙が始まると県議は全市で行動できましたが、市議の場合はまだまだ地域選挙です。本当に紙一重の差、二票差の最下位ですべり込んだ、前回の戦いでした。

ペアでたたかった谷内清子さんは県議に見事当選。女性議員ゼロ県の汚名を、三二年ぶりに返上しました。

県議に女性の谷内さんが当選されたのは、ほんとうに心強く、うれしいことでした。

以来、何かと相談しあい、助けあいながら四年間を過ごし、またアベック選挙で再選を目指しています。

議員になってからは、とても緊張しました。すべてが一年生で、周りの人に支えられながら、何とか無事に過ごしてきました。

高岡市は二八名中三名の女性議員で、党派を超えて、女性施策や教育、介護など、しっかり女性の視点で提言、提案してきました。それは本当に充実した期間でした。



この四月、二期目を目指して戦いを続けています。

市議選は地域選挙です。十七万人地方都市では、地域で顔がみえる議員が必要だという認識です。

この四年間に一六回、通信『のり子ネット』を出して、地域の人たちに議会のことを伝えて来ました。これがやっと、地域の人たちから『のり子ネット』を見たよ」と声をかけてもらえるようになりました。

私は栄養士でもあるので、食について話したり、料理をしたり、市政報告をしたりと、ミニ集会をたくさんして、四年間ネットワークを作る努力をしてきました。

四月二十七日にはその審判を受ける時がきます。とても緊張しますが、この選挙があることで、次の議会ですっかり働けるのだと思います。市民の目線、女性の目線で、ものを言い、行動してゆくことの大切さを痛感しています。楽しい報告ができるように頑張っております。

全国の仲間の皆様頑張りますよう。

お互いの健闘を祈ります!!。

(高岡市・市議会議員)

女は「強くなくていい」

だから世界を支えられる

富山県富山市・市議 志麻愛子

景気が低迷し先の見えない時代は、ともすると「正義の実現」という言葉を旗印に若肉強食の打開策が採られる危険があります。

まさにイラクを攻撃するアメリカがそうですが、日本の各地で同じことが起こっています。

強さ、伝統、家庭、奉仕などの言葉を振りかざす新保守といわれる勢力の台頭に、危機感を強くしています。

「市民と行政の協働」「自立・共助・公助」という私たちが訴えてきた政策も、へたをすると上手に利用されてしまいます。

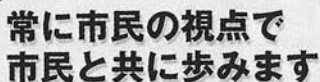
強くなくてもいい。必要以上にもうけなくていい。

皆が生きていてよかったと思える社会をつくるために、お互いに助け合い、分かち合い、違いも認め合っていきたい。

そう思っているのは、出産や育児、介護など生命と向き合う機会が多い女性たちに多いようです。

男たちが造ってきた社会の行き詰まりをなんとかするには、これまでと違う価値観が必要です。今こそ女性たちが地域を、世界を守らなければならないと思います。

その思いで、私は富山市議二期目に挑戦します。



様々な分野の政策を提言

福祉、環境、教育、人権、まちづくりなど各分野の市民グループと共に活動し、全国的な研究会にも参加。こうした学びの中から、数多くの政策を提言をしてきました。

税金の使われ方をチェック

行政から提案される事業をチェックし、それぞれの問題に詳しい市民の方々と協働で取り組んできました。桐朋学園大学院大学関連の事業、熊野川ダムからの受水計画、ガラスの里構想など、問いたできてきました。

議会や市政の情報公開

通信「さいしょの一步」を年3〜4回発行し、議員報酬・政務調査費・後援会の会計報告も掲載しています。また、ホームページを開設。随時、市政報告会やミニ集会を開催し、市政の状況を報告。

いっしょに創りましょう
安心と魅力の富山市を



富山市議会議員 無所属・市民派

<2006.5.14>

し ま あ い こ
志麻愛子



金の力にも負けぬ
正常な市民の心を持ち

政治とは
生活の質を決めることと
肝に銘じ
市民の声を
よく見聞きしわかり
そして忘れず

無所屬・市民派として
東に困っている人あれば
行って相談にのり
西に不正あれば
行ってその誤りをただし

南に元氣が出る

イベントがあれば
行って共に汗を流し
北にメンツで
税金を使うことあれば
ヤメナサイと言ひ

あたたかで　すがすがしい政治を

石川県・県議　広岡たつみ

食も農も経済も雇用も、政府の対策の遅れは、地方にはすぐに響いてきます。手あかにまみれた政治は、地域から改革するほかありません。

四年前、初当選。以来、議会では毎回質問に立って、「県民の立場で県政を問う」役を貫きました。

五人の子どもを育てた経験を生かして子育て支援に取り組み、「子育てひろば」を提案しましたが、それが厚生省の政策になったのは、嬉しいかぎりです。DV問題ではシエルターを立ちあげました。わたしの質問がきっかけで男女共同参画推進条令がつけられたのも、嬉しいことです。石川県庁は、ことし一月六日から新庁舎へ。議会棟の委員会室に傍聴席ができました。モニターテレビでも傍聴できます。

二階の購買部の一角には授産所の品物を販売する場ができました。とても嬉しい。ただ、「一九階の展望ロビーの一角に、障害のある人の喫茶コーナーを」とお願いしたのは、実現しませんでした。

働く場としての場所もあり、可能な時期に提案したのに、残念でなりません。ハード面のバリアフリーも大切ですが、心のバリアフリーのむずかしさをつくづく感じました。この課題に、来期は力いっぱいチャレンジします。

…広岡たつみの取り組んでいる課題と政策…

1. 一人ひとりが自分らしく生きられる社会を

- 男女が共に手を取り合って生きるために、男女共同参画に取り組みます
- お年寄りの生きがいと暮らしをささえる、きめこまかな仕組みをつくります
- 障がいを持つ人がいきいきと生きられるように、その自立を支援します



▲議場での質問はいつも緊張します

2. だれもが希望をもって仕事ができるために

- 緊急雇用創出特別基金などによる雇用創出を進めます
- 石川県の「ものづくり」を重視した中小企業対策をすすめます
- ITはじめ先端技術産業の振興やベンチャー産業の育成に取り組みます
- 福祉や地域づくりなどの仕事おこしに取り組みます
- NPO支援条例を制定し、NPO活動を促進します



▲デイクアハウスこのゆびとーまれのスタッフとパテリ

3. みんなが支えあってくらせる安心な仕組みを

- 豊かな自然環境を守り、ゴミを出さない仕組みづくりに取り組みます
- 児童虐待やいじめなど、学校や家庭の中の暴力をなくします
- 安全で魅力ある「食と農」の振興に取り組みます

4. まちづくりを自分たちの手で

- 中心市街地の活性化に取り組み、まちに子どもの声があふれるようにします
- 行政のムダをなくしNPOと行政のパートナーシップをすすめます
- ボランティア活動を積極的に支援し、公共的関心が広がるようにします
- だれもが自由に行動できるバリアフリーのまちづくりに取り組みます



▲土木委員会でトンネル工事現場を視察しました

5. 子どもたちの未来に向けて

- 子育てを地域でささえ、女性が希望をもって子育てができるようにします
- 子どもの育ちをささえ、いじめやひきこもりや問題行動をなくします
- 障がいを持つ子どもたちに配慮した、きめこまかな学校教育をすすめます

わたしも応援します！



金沢市
子ども会連合会
常任相談役
宮口 優

わずか50年の間に、日本は世界で一番子育ての下手な国のひとつになってしまいました。どうしてこうなったのでしょうか。大人の責任として反省しなければなりません。むしろ経済は重要ですが、人によって心が豊かになり、人によって国が富みます。わたしはそんな考えを広岡さんと共感しました。カ一杯広岡さんを応援します。

わたしのこの4年間の実績です

- 2001年10月に石川県男女共同参画推進条例ができました。わたしの意見が大幅に取り入れられています。
- 子育て支援に取り組んでいます。「子育て広場」を提案してきました。現在、全国あちこちで進められています。
- 自治体が業者と結ぶ契約のあり方について問題提起し、全国的な注目を浴びました。
- DV被害者の支援とDVの啓発に取り組んでいます。
- 議会では毎回のよう一般質問に立ちました。県政の課題を明らかにし、県民に開かれた県政を確立するよう努めました。

これからが本番、

わたしたちの知恵と力を生かします！

東京都中野区・区議 佐藤ひろこ

三〇年ほど前、府中療育センターで重度の障害をもつ方々と出会ったことが、私の活動の原点です。「街の中で当たり前前に暮らしたい」という思いを実現するために、施設から出て地域で暮らすことをお手伝いしてきました。

ヘルパー制度を要求して東京都と交渉する場にも行きました。その中から、重度脳性まひ者等介護人派遣制度ができました。時給も上がってきて、それを仕事として選ぶ人たちもやっと増えてきたところです。でも一日八時間しかまだ保障されていません。

ところが、四月からはじまる支援費制度で、ホームヘルプの時間に上限をもうけようと厚生労働省は考えていることがわかりました。知的障害の人で一日二時間、身体障害の人は一日四時間まで。これでは、重い障害を持つ人は、一人で地域で暮らすことができません。

一月下旬、厚生労働省前には連日たくさんの人たちが、車いすや、呼吸器をつけて、全国から集まっていました。年明けに厚生労働省から出されたヘルパー時間の上限に驚き、「これでは地域で生きられない」と抗議の声を上げていたのです。

上限を決めず、二四時間ホームヘルプが使えると、みんなが助かります。利用者は必要に応じで利用でき、介護する人はたくさん働くことができ、不況の中で、雇用の拡大にもなります。



いっしょに生きたいネット! この街で...

2003年2月15日53号

うさぎだより

中野区議会議員●無所属

佐藤ひろこ

mail: usagidayori@hotmail.com

編集・発行: 佐藤ひろこ住宅自治会をすすめる会

【事務所】〒164-0001 中野区中野5-32-11-302 TEL/FAX 3368-0577

【自宅】〒164-0001 中野区中野1-33-9 TEL/FAX 3368-9107

**これからが本番、
わたしたちの知恵と力を生かす時!**



一月下旬、厚生労働省前には連日たくさんの人達が、車いすや呼吸器をつけて全国から集まっていた。年明けは厚生労働省から出されたヘルパー時間の上限設定に驚き、「これでは地域で生きたくない」と抗議の声を上げていたのです。

厚生労働省はやつと上限の撤廃を約束しました。しかし、一、二年の経過措置です。ほんとうの24時間の介護保障をつくるためにがんばります。



右端が佐藤ひろこ

介護保険に続き今年には支援費制度の導入で、これからの社会保障のあり方が問われる大変な時です。既存の施設の活用、NPOや民間法人の力を生かした運営など多様な方法で、ひとりひとりの生活を支える新しいしくみや福祉サービスを支えに大きくしていかなくてはなりません。

けれども地域の中で暮らせるために全力をつくします。

30年ほど前、府中療養センターで重度の障害をもつ方々と出会うことが、私の活動の原点です。「街の中で当たり前に暮らしたい」という思いを実現する人々に、施設から出て地域で暮らすことをお手伝いしていました。

ヘルパー制度を要求して東京都と交渉する場にも行きました。その中から重度障害者等介護人派遣制度ができました。時給も上がってきて、それを仕事として選ぶ人たちがもつと増えてきたところです。でも一日8時間しか支払保障されていません。

ところが、4月からはじまる支援費制度で、ホームヘルプの時間に上限をもつよう厚生労働省は考えていることがわかりました。知的障害の人で

一日2時間、身体障害の人は一、二時間まで、これでは重い障害を持つ人は一人で地域で暮らすことができません。

上限を決めず24時間ホームヘルプが使え、みんなが助かります。利用者は必要に応じて利用でき、働く人はたくさん働くことができます。不況の中で雇用の拡大にもなります。中野で障害を持つ人たちが自身もホームヘルプ事業を立ち上げる動きはじまっています。人と人が支え合う地域をつくるのは私達自身です。



地域で生きる

24時間の介護保障を!

情報も議論もいっしょに

福祉サービス徹底して拡大

区議になつて12年間、議会ごとに「うさぎだより」で情報をお伝えし、福祉サービスを広げる活動や女性のサポーターの活動などに取り組みながら、議会で発言を続けてきました。

そして区長をええ、山梨県上野原スポーツ学習施設計画の廃止、住基ネットの切断など、区政を変えるスタートをきりました。

わたしは自身が政治家として、サービスを生み出す知恵を持つ、それがほんとうにひとりひとりを生かす地域を築き作り出すことにはあります。

中野で障害を持つ人たちが自身でホームヘルプ事業を立ち上げる動きも始まりました。厚生労働省はやつと上限の撤廃を約束しました。しかし、一、二年の経過措置です。ほんとうの24時間の介護保障をつくるためにがんばります。人と人が支え合う地域をつくるのは私たち自身です。

一人ひとりが主役になって 人と地球にやさしい政治を

東京都新宿区・区議 小野きみ子

クリーンな政治家として知られた藤原道子さんの秘書をしながら、市川房枝さん、加藤シツエさんという大先輩に学んだことが、今でも私の宝です。批判ばかりをするのではなく自ら政策立案を。そのためには常に現場を知ること。現場の声に謙虚に耳を傾けることだと思い続けています。

九一年初当選の時の公約は、「地球にやさしい、お年寄りにやさしい、住む人にやさしい新宿区」でした。以来十二年、国政レベルに関わっていた時には想像できなかった区議会のさまざまな問題に、決して逃げず体当たりし、「未来」が少し読めるようになった気がしています。

四期目に向かう今年は「情報公開と区民参加」「男女共同参画」をさらにすすめて、「すべての人にやさしい新宿区、一人ひとりが主役になれる新宿区、地球にやさしい新宿区」を目指します。十二年間、自転車中心の手づくり選挙を続けてきましたが、今回は自転車規制を受けました。また小野きみ子と似た名前の人の立候補が予定されているようです。

でも妨害があればあるほど、元氣が出ます。

私は中学一年のとき、結核で十一か月入院、薬の副作用ですっかり肥って退院。友人が「みっともない」と話しているのを聞き、「それならばせめて生き方はいさぎよく」をモットーに生き

てきましたので。

「この日本」を変えられるのは「女」。そして「地域」の向こうに「世界」を展望しながら、まず「この地域」のために働きます。

すべての人にやさしい

ひとりひとりが主人公になれる
地球にやさしい

「新宿区を！」

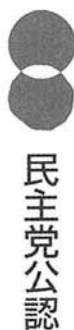


私も推薦します

- | | |
|--------|------------|
| 中山 弘子 | (新宿区長) |
| 菅 直人 | (民主党代表) |
| 海江田 万里 | (民主党都連会長) |
| 石毛 鏡子 | (衆議院議員) |
| 富田 俊正 | (都議会議員) |
| 日置 雅晴 | (弁護士) |
| 田中 喜美子 | (「わいふ」編集長) |

新宿区議会議員候補

小野きみ子



民主党公認

政党にしばられず

市民の常識を貫きます

東京都調布市・市議

大河^{おお}み^{かわ}とこ

一九九五年、市川房枝政治参画センターでの学習を生かして、クリーンな市民選挙を実行、調布市議になりました。以来、一人会派〈元気派市民の会〉を名乗っています。三期目に挑戦します。生まれは長野県小海町（一九五四）。「筋を通す」のは、県民性かもしれません。

私は市民の皆さんの「耳に心地よい提案」だけをすることは、やりたくありません。

厳しい借金財政の市。ばらまきや思いつき、個別要望対応型の政策をやめて、借金を増やさない努力、工夫をしながら、計画を見直し、時には我慢もして、まちの体質改善を図っています。

たとえば三月議会で乳幼児の医療費の助成に関して、所得制限の規定を削り、助成対象も一気に就学前まで拡大するという、多摩地区では初の実施を提案された条例の改正に対し、私一人だけの反対となりました。

限られた財源のなかで多様化する市民ニーズにきめ細やかに対応するには、十分な調査を行い、新たに必要とされている事業は何かを吟味しながら提案するのが基本です。

特に所得制限を撤廃し一律助成するいわゆる「ばらまき政策」は避けるのが当然です。あれもこれもというばらまきの個別対応は、場当たりです。

旧来のやり方で将来負担の公平性をという手法も見直していくべきです。

政策に現在意思表示できない子ども世代へのツケを回さないことが原則だと私は考えています。情報公開から「情報共有」へ。

財政の監視から「チェック」そして「提案」へ。

——その結果として「市民参加」から「市民参画」へ——を志し、実行し続けた八年でした。私たちのまちのことは私たちで決める。

そのために、私は無党派を貫いていきます。

市民の力が政治を変える！

三期目に挑戦します

東京都武蔵野市・市議 山本ひとみ

タクシー会社で事務員をしながら、市民運動をしていた生活から、市議に初当選して、八年がすぎました。

この八年間、「疑惑とムダのない市政」を目標に、全力で市政改革にとりくんできました。なかでも、土地価格や市長交際費など、市政情報の全面公開の必要性和、市の外郭団体である土地開発公社の廃止を訴えてきました。

その結果、

- ①土地開発公社の借金が九八年度からの三年間で、約一〇〇億円減少しました。
- ②市の情報公開条例が改正されました。
- ③いくつかの学童クラブの定員が拡大しました。
- ④JR武蔵境駅にエレベーター・エスカレーターが設置されました。

これらは、特定の利権団体のひも付きとならず、いつも市民とともに行動したからこそ実現できたものと思います。最近では、有事故法反対、住基ネットからの離脱、性同一性障害をもつ人たちの人権を守る法改正の必要性なども、議会で訴えました。

今の市議会では、土地開発公社の廃止、入札制度改革、市幹部職員の外郭団体への天下りの禁止、高層マンション建設規制、中学校給食実施など、市民のあたりまえの要求が、まだまだ、通

りません。その一方、長野、千葉、新潟などでは、市民のボランティア選挙が既成政党に勝利し、政治を変える市民の力が全国各地で大きく育っています。

今回三期目の挑戦となりますが、武蔵野市でも税金のムダ使いをなくし、福祉・教育・環境保護に力を入れ、市民の声が届く市政にするため、全力を尽くします。

そして、全国で、市民の力に根ざした、新しい政治の流れを大きくするために、今後ともがんばっていききたいと思います。

市議から県議選へ

堂本県政の支えになります

千葉県白井市 宮沢友子

一九八七年、千葉県白井町の町議になって以来、四期十六年、白井の町づくりにかわつてきた。

この間、白井町は白井市になり、私の肩書きも市議になった。

市の現状に満足しているわけではないが、白井の懸案事項を解決するため、今回、県議会議員選挙に出ることを決心した。

千葉県の権限に属する最大の課題は、千葉ニュータウン事業。

国策であったとはいえ、事業構想を定めたのは千葉県だ。

当初、計画された人口三四万人は、鉄道など大規模な公益事業の成立要件から決められたものだったが、その後、八回の事業計画変更で、計画人口を十九万四千人に減らした。

北総鉄道の高運賃は、ここに端を発する。しかも、入居者数は、事業着工後三三年を経た現在も約八万人。変更人口の約四割に過ぎない。

社会状況の変化はあったが、県がそれに速やかな対応をしてこなかったのは、公表されている資料からも明らかだ。新住法による現在の事業期間（二〇〇四年度）が終わると、延長は一〇年間だとし、県はその後の整備手法はこれから考えるという方針を出した。白井市内での進捗率は七五パーセントであり、問題は山積している。改めて県のニュータウン開発への責任を問うと

もに、地元の参加が必要だ。

また、県が権限を持つのはニュータウン事業だけではない。調整区域での違法建築、産廃の山に撤去命令を出せるのは県。福祉や医療で、県は県域を定めてコントロールしているが、市民の生活実態とかけ離れていては、住民にとって迷惑というしかない。市町村を交えて見直すべきだ。地域のことは地域で決められるよう、市町村への分権を進める。つまり、県政のあり方を見直す必要がある。

「情報公開」「住民参加」と「科学的思考」、さらに十六年間の市議活動で培った「バランス感覚」は、解決への有効な武器になるだろう。

私は県議選に立候補する。

千葉県を変えようと、堂本知事を送りだしたあと、ずーっと気になっていた県政。自民党が多数を占める県議会で苦戦中の堂本さんの背中を支え、もう一押しも二押しもしなくちゃ。

昨年十二月十三日、小田実さん、澤地久枝さんなどが呼びかけた、アメリカのイラク攻撃に反対する集会が渋谷であり、参加した。二千人を越す人びとでいっぱい。おばさんもおじさんも若い人もいろいろいて、うれしかった。

白井市議会は三月十三日付けで「国際紛争の平和的解決への貢献を求める意見書」を国及び国会へ宛て、提出した。あえて「イラク攻撃反対」という文言は入れなかったけれど、賛成多数で採択されることを優先したからだ。

「カッターク」でも、足もとから少しずつ変えていこう。その時、「この日本」も、変わっていくだろう。



やすらぎと生きがいがある町をめざして

再度市議選に立候補します

山梨県都留市 清水きぬよ

富士山を望む都留市は、小さなまちながら、「市立都留文科大学」を持つ、水と緑の豊かなまちです。四年前、「地縁・血縁・金」と言われる甲州選挙が堂々とまかり通る当地で、ひたすらクリーン選挙を訴えた私の初選挙は、その厚い壁にはばまれ落選でした。候補者・住民共に倫理感の無さにあきれるばかりですが、これを改革しないかぎり地方自治の改革は無いと再度、立候補します。

環境・福祉・教育等の住民活動を通して、また「市男女共同参画推進委員」（二期目）を通して見えてきた行政のあり方、住民意識の問題等、課題は山積みされており、財政の問題も重要視せねばならない状況です。

この四年の間に、国の流れをしっかり見て、自ら考え声を出す人も多くなり、自立した住民意識が育って来ていることを感じています。

私自身も、三年間市川房枝記念館で多くの事を学び、力をつけさせて頂きました。この力をバネに選挙を勝ち抜き、本来の議員活動のあり方を住民にお知らせし、自分たちのまちは自分たちの手でつくるものであることを発信していきたいと思っています。

地方自治体改革の先進地である北海道二セコ町長逢坂誠二氏が、毎日、インターネットで発信

地球をのちを
まもりたい！



清水きぬよ

やすらぎと生きがいがあるまちを

清水きぬよ 代表 堀口けい子
後援会事務所 〒402-0031 都留市十日市場244-1
TEL. FAX 43-4966

E-mail: simizu-kk@circus.ocn.ne.jp

している地方自治体のあり方、課題・悩み、また田中長野県知事の発信している問題は、まさに全国地方自治体の共通課題です。自治体トップの姿勢の重要性は言うまでもありませんが、議員、とりわけしっかりと力を持った女性議員が議会で活動することが、改革への大きな力であると考えます。

前回にまいた種が芽を出し、「今度こそ当選して……」の声が思いがけない方がたから多く聞かれ、前回の不安と孤独感は少し減少しています。しかしすでに金やモノが飛びかい、相も変わらぬ倫理感のなさに、どう戦えばよいか、悩ましい限りです。市民の意識の变革を信じ、よい結果を期待し、皆様と語り合えることを楽しみにしております。

愛媛をみんなで変える・決める・創る

愛媛県・県議 阿部悦子

四年前、地域の皆様のボランティアとカンパ、そして全国的な「女性県議ゼロ県ゼロ運動」の流れに乗って初当選、愛媛県初の女性議員になりました。それまではなんと、女性が参政権を得てから五二年間、愛媛には女性の県議は一人もいなかったのです。

それから四年、瀬戸内の浄化、立木トラスト運動などを二〇年間続けてきた体験を生かし、浦山ダムの建設中止、砂利採取禁止、造船所の隣に予定されていた中学校の建設を白紙撤回、新しいえひめ丸の安全性を確保して、教育本来の実習に改革、委員会などの会議での女性のお茶くみ廃止、県庁の女性職員の制服廃止、男性も夏場はノーネクタイに。試験結果などは本人が請求すれば情報公開、などを実現できました。

それでも瀬戸内海からアサリを採る風景は消えたままです。漁獲高の減少も続いています。埋立てや海砂採取、廃棄物の持込みの禁止などをさらに充実させたい。

海は生命の源です。美しい瀬戸内海を取戻したい。

同時に、環境保全型（有機農業）で安全な食糧の自給をはかる。そのためには農業の担い手の環境を改善し、たくさんの方の担い手が生まれるようにしたい。



海岸の埋立て・ダム・大規模林道・豊予海峡ルートなど、ムダな公共事業の中止を

情報公開もまだまだです。結果の公開だけでなく、政策の計画段階から市民参画を。県に行政オンブズの窓口を設け、県民が県政をチェックする施設を。高齢者の生きがいと人権が守られる介護を。そのために利用しやすい介護保険と施設の質の向上を。

——しなければならぬことは、山ほどあります。

それでも四年間の実践で、状況も、改善の方法も、ずつと見えるようになりました。「女性の視点で政治を変える」は、全国どこでも、今こそ大切です。

そして今、とくに声を大きくして言いたいのは、「どんな戦争も絶対にしてはいけない」ということ。小石を一つ一つ積み重ねるようにしてようやく確保してきたことも、すべて一瞬のうちに消滅します。「他国の戦争を支持する政府」の方針を根底から変えるのは地域。改めて責任の大きさを感じながら二期目に挑戦します。

辺境より撃つ

市町村合併に見る地方自治のゆくえ

増村秀一

一、辺境ではいま、何がおこなわれているか

裏日本の北陸地方は、長い冬の間、どんよりした雪空に閉ざされる。

「越後・簡石・親不知」

そんな辺境の地にも、「市町村合併」の荒波が押し寄せてきた。

糸魚川市・青海町・能生町・名立町の一市三町を合わせて、人口五万余の「新市」の構想である。（のちに、名立町は脱退した。）

二〇〇二年の夏、期限内取組みに向けて、二つの審議会が発足した。「合併任意協議会」と「ビジョン策定検討委員会」である。

以来、「政・官・業」一体となった「ガッペイ・ガッペイ」の大合唱ばかりがきこえてくるようになった。国策にのっとって合併推進を企図する「行政主導」をよそに、住民の関心はいまひ

とつ盛り上がらない。

にわかに天から降って湧いたような合併論議に、いささかとまどいも見られる。「どうせお上のすることでしょう。今さら何を言っても始まらない」と、辺境特有の「長いものに巻かれる」式のだんまりを決めこむ向きもある。

大勢は、「合併の良し悪しはともかく、時代の流れでしょう」。

いつ脱け出せるかわからぬ出口なしの不況への苛立ちから、特例債への「漠然とした期待」を抱くのも無理からぬこと。

肝心なのは、「いま、なぜ合併が必要か」ということであり、「誰の為の合併なのか」ということ。そして最終的には、「自分たちの未来は自分たちで選択する」という「住民自治」の問題であるはずなのだか……。

では、具体的にはどのようなことが行われているのか。私の地元、糸魚川市で行われたことから、具体的に紹介する。

■商工会主催のシンポジウム（〇二年十月六日）

「さわやかに合併しよう」（会頭あいさつ）

講師は、総務省市町村合併推進会議委員の小西砂千央氏。千歳から駆けつけたという、「今や、全国で引張りだこ」（主催者紹介）の学者さん。

「私は役所の立場で考える」

「大きいことはいいことだ」

「小さい自治体は、不利になる」

「期限内に間に合わせるほうが得」

「勇気をもって合併しよう。街づくりはそれからのこと」

「合併に向けた気運（モティベーション）を高めることが肝心」

「関西訛りの早口でまくしたて、

「特例債はニンジンである」

とまで言い切った。

小西氏の得意技は、どうやら「黒を白」と言いくるめるレトリックにあるとみた。そのせいか、何となくすっきりしない後味の悪さが残った。

○財政学的効率論のみで、現在進められている合併案をすべて説明しきれるか。

○住民を行政サービスの受け手としてのみ捉え、「地方自治」の担い手たる主権者としての視点が欠落しているのではあるまいか。

○過去の「大合併」のいきさつも、したがってそこから学ぶべき教訓も、まるでかえりみられてはいないのではあるまいか。

結論的にいうと、一見壮大な推進論のただなかには、「住民不在」という空洞がぼつかりと口を空けている。

かつて、私たちの村が隣接する町に吸収合併された頃、それでも村には村のそれなりの共同体意識も活力も残っていたように重う。それが急速に衰退し、ふるさとへの求心力もエネルギーも失われていった実情を目のあたりにしている。

しかし、大学の若い学者さんは、しょせん、地方住民の暮らしぶりなぞ知る由もない。いかに逼迫した時代の要請とはいえ、いかにもプラグマティックな論理によって「十把ひとからげ」の国策が合理化され正当化されること自体が腑に落ちぬ。

小西氏の言葉を借りるならば、「住民への目配り」さえ不十分な論理で将来の国民の運命が規定されるというのは、いかにも情けない。しかもそれが、全国津々浦々にまで鳴物入りで喧伝されているとしたら、背筋が寒くなる。

■地方住民説明会（〇二年十月四日）

参加者（約百名）全員に、

「新潟県市町村合併支援課」発行のパンフレットが配られた。

『新しいまちづくりに向かって、話そう、考えよう、市町村合併』

見開き四ページ（裏表八ページ）、総カラー刷りの豪華版である。合併に向けての、文字どおり「バラ色の夢と希望の物語」がまばゆいばかりに綴られてある。

全県の市町村に配布されているとしたら、それだけでも相当の税金がついやされていることは間違いない。

ところが後日、このパンフレットの、いわば「そっくりさん」のタネ本があったことに気づいた。

『合併協議会の運営の手引き』（市町村自治研究会編）

市町村合併については、これさえあればオールマイティの教則本、総務省お墨付きの「法定協

議会 運営マニュアル」である。

きわめつけは、同時に配られた市総務課発行の説明ビラ。「今、なぜ合併か」

(1) 地方分権、自治体の「自己決定・自己責任」

(2) 交通事情や情報通信の発達

(3) 少子高齢化時代や、多様化する市民ニーズへの対応

(4) 小規模自治体には権限を縮小していく

これらの理由づけの文言も、そっくりそのまま「マニュアル」からの抜き書きであった。

「今、なぜ合併か」に反論を試みると

(1) 「地方分権」を内容のあるものにするには、

①許認可制度のタテ割り行政を改めねばなるまい。

②国庫補助金等をめぐる陳情制度をなくさねばなるまい。

③シャープ勧告に見られるように、役割分担を明確にし、「機関委任業務」等を整理せねばなるまい。

④地方税制の改革等を通じて、自治体の財源確保を見直さねばなるまい。

(2) 時代の趨勢を言っているの、それが即合併への必然的理由にはならない。

(3) 少子化は庶民の自衛策。

高齢化も全国的傾向、むしろ「顔の見える」きめ細かなサービスが必要。

(4) これこそが、無責任な政府の恫喝。

要は、自治体の「自由裁量権」なくしては、地方の「活性化」はあり得ない。

更に問題なのは、いわゆる「メリット・デメリット」論である。

○（合併は）百利あつて一害なし。

○サーピスは大きく、負担は低く。

○合併特例債、約二〇〇億円……。

○最小の経費・最大の効果。

○（合併反対は）合理化アレルギー。

「百利あつて……」は「マニユアル」から。「アレルギー」も、同じく小西委員の文言の借用である。

これら一連のつながりを、どう理解したらよいのか。

政府（総務省）↓県↓地方自治体、

つまり、行政機構「丸投げ」の、国策の「たれ流し」である。

これほど露骨で徹底した、なりふり構わぬ破廉恥なやり方には、めったにお目にかかれるものではない。

小西氏のレトリックも犯罪的ではあるが、事ここに及んでは、ほとんどデマとごじつけのオンパレードといつてよい。

かつて、古代ギリシアの時代、悪質なデマゴーグ（扇動政治家）はソクラテスを死に至らしめ、アテネをも内戦に導き、国を亡ぼした。国を亡ぼさずとも、デマは衆愚政治ないしはファシズムに導く危険性を充分に孕んでいる。

異論・反論をも許さぬ大宣伝は、「合併ファシズム」ではなからうか。

それにしても、これらの児戯にも似た低俗なおためごかしで、国民をだませると、たかを括つて
42
いるのだろうか。だとしたら、いかにも国民を愚弄している。そもそもこれは、一種の「愚民
政策」だったのか。

かてて加えて、「お上の言いなり」になっている地方行政の醜態ぶりも目に余る。無原則、無
節操、「住民自治」へのうしろめたさも「自己責任」もまるでない。ひたすら、国の政策の「正
当性」を弁護するスポークスマンになり下がっている。

躍起になればなるほど、自ら「地方自治」の首を絞めていることに気づかない。その「無自覚
・無神経」は、鈍感を通りこして退廃の域に達している。

二、過去の「大合併」は、何をもたらしたか

我が国の地方自治体は、およそ半世紀ごとに二度の「大合併」を経ている。

「明治の大合併」(一八八九・明二三)

「昭和の大合併」(一九五四・昭二九)

いずれの合併も、政府が狙う中央集権強化のために統治機構の再編が断行された。しかも、い
ずれも農村を中心舞台として行われている。政府にとって「安上がり」の農村機構の整備、それ
は同時に農村の統治機構さえ確保されれば「地方自治の強化」なぞ二の次だった。(『市町村合併
と地域のゆくえ』保母武彦著、岩波ブックレット)

昭和二九年、それまでの一町九村が合併して糸魚川市となった。

その際、最も反対の気運の高かったのが、小滝村である。小滝村は、新市の総面積のおよそ四割を占める典型的な山村である。明星山の急峻な裾野にへばり着くように、四〇〇戸の部落が点在していた。

「当初、発電所関係の固定資産税による収入でゆとりのある村政が運営できるという理由で、合併に反対のものもあった。」

（『新潟県市町村合併誌』下、昭三七発行）

しかし、「飲み食い」以上の懐柔策も含めて説得が続けられ、（一世帯一票の）住民投票が行われた。結果は合併賛成二七〇票。それでも棄権・その他が三分の一を上まわった。

当時の「反対運動の挫折」を知る人は少ない。当事者は「おぞましい記憶」として、多くを語らない。

半世紀を経て小滝地区はどうなったか。

おいしいところは持つてゆかれ、求心力を失った共同体を捨てて市街地に移り住む者が多くなれば、小学校まで廃校になる。それがまた過疎に拍車をかける。

世帯数は半減し（一七〇）、人口はかつての六分の一に激減した（三四〇人）。残るのは高齢者ばかりで、「何をするにも、エネルギーが湧いてこない」という。

唯一残っていた農協の食品店も閉業した。最近になって、スーパーの販売車までも、巡回を廃業することになった。腰をかがめて食品を買いに集っていた老人たちの生活はどうなるのか。

合併は、周辺部、特に農村・山間部に壊滅的な打撃を与える。そこに住む住民の経済的基盤を揺るがし、コミュニティの崩壊を促し、当然のことながら住民自治の機会すら根こそぎ奪つ

てしまう。

こうした現象は、なにも小滝村に限ったわけではない。似たような結果は、ほかの谷合の村落にも見られる。小滝村の場合は、その経済的あるいは地理的な特殊条件によって、たまたま顕著に現れたにすぎない。

西海村の場合は、当時の村長が、

「純農村のため、市に合併しても幸福にはならないという意見を強く主張していた」（前掲書）
しかしこれも当時の自治庁の「強い意見に接し」屈服せざるを得なかった。

そこには、地方の特殊性や「自治の精神」をないがしろにして進められる「半強制的合併」の強権発動が見え隠れする。

結果として、支所はなくなり、郵便局は移動し、村の中心部はすっかりすたれてしまった。村民が人海戦術で丘を切り崩して建てた中学校も廃校になった。かつて四つもあった小学校は、やがてひとつに統合される。

子や孫をもつ親は、将来を見越して市街地近郊に移り住む者が後を絶たない。

「昭和の合併」当時、全国町村会は再三にわたり「不合理なる合併勧奨を中止するよう」政府に申し入れをしている。「平成の合併」を前に、全国町村長会は、「合併強制は自治の危機」というアピールを表明した（『朝日』〇二年十一月二十八日）。

過去の歴史の教訓として、合併はあくまでも地域住民の将来にわたる幸福を前提として考えるべきである。そのためには、住民と自治体が、「主体的」に選ぶものでなければならない。

拙速な、「ビジョンなき合併」は地域的格差をますます増幅し、地方自治の精神をそこないかねない。

三、「平成の大合併」の狙い

「究極の行政改革」ともいわれる「平成の大合併」。その原因は、いうまでもなく国家的財政破綻にある。七〇〇兆円などという途方もない長期債務残高（借金）、計量不能の不良債権、どれをとっても我われにしてみれば無縁の単なる天文学的数字、全く別次元のフィクションでしかない。

しかしその結果として、国民の不利益という形でツケを払わされるのは迷惑なことだ。国家財政の破綻が、地方行政の「合理化」という形でまかなわれようとしている。

そこまで追い込んだ責任はどこにあつたのか。歴代の保守政権の、いわば度重なる「失政」にあつた、といわざるを得まい。

公共事業をめぐる政・官・業の癒着が指弾されて久しい。建設省・農水省・運輸省、それに外務省までも絡んだ利権構造が暴露された。表に出るのは氷山の一角で、依然として道路族に象徴されるように族議員が跋扈する。

全国一律の合併推進に、「おためごかし」の理屈をぶち上げている片山総務大臣にしてからが、選挙資金の利権漁りを率先してやっている。

「（献金は）たまたまだ。特に理由はない」（片山氏談、「朝日」〇二年一月一日）
私利私欲に明け暮れる政治家に、「地方自治」が蹂躪されるいわれはない。

「平成の大合併」の意図するもの、その究極の本音は、地方制度調査会の西尾私案によっても明らかである。

「合併特例法失効後の残存小規模町村を強制的に合併させようというもの。その際自治体としての権限を奪い、財源は住民負担でまかなう」（『朝日』〇二年十一月二日）

これではまさしく「地方自治体つぶし」ではないか。つまり、現在の中央政権にとっては、「地方自治」も「地方分権」もどうでもよいことなのだ。要は、金のかかる農村部や地方を再編して「安上がり」に面倒見よう」ということ、同時に「大きくまとめて効率的に支配しよう」という統治の論理が隠されていることを看過してはなるまい。

したがってそれは、あくまでも中央政権にとつての延命策であつて、地方のためでは断じてない。

四、憲法と地方自治の精神

明治憲法には「地方自治」に関する規定がなかった。實際上、戦前の「地方自治体」は、内務省を頂点とする統治機構に組み込まれていた。地方自治といつても、「国家の基礎を固くせん」とする統治の手段、だったのである。

（「市制・町村制理由」一八八九）

民主主義の導入と共に、新憲法には「地方自治」の条文が設けられた。（第八章）

九二条「地方自治の本旨」

「地方公共団体の組織及び運営に関する事項は、地方自治の本旨に基づいて、法律でこれを定める。」

憲法発布の翌、昭和二年、文部省により発行された『あたらしい憲法のはなし』には、「地方自治」について次のように説明されている。

「戦争中は、なんでも「国のため」といつて、国民のひとりひとりのことが、かるく考えられていました。しかし、国は国民のあつまりで、国民のひとりひとりがよくならなければ、国はよくなりません。それと同じように、日本の国は、たくさんの方に分かれています。その地方が、それぞれさかえてゆかなければ、国はさかえてゆきません。そのためには、地方が、それぞれじぶんのことを治めてゆくのが、いちばんよいのです。なぜならば、地方には、その地方のいろいろな事情があり、その地方に住んでいる人が、いちばんよくこれを知っているからです。じぶんでじぶんのことをじゆうにやってゆくことを「自治」といいます。それで国の地方ごとに、自治でやらせてゆくことを、「地方自治」というのです。」

当時の中学生を対象として作られた教科書であるとはいえ、それだからこそ今にしてなお新鮮な意気込みが感じられる。

今や、忘れられがちな「地方自治の本旨」が充分に説かれている。

(1) 住民が自分たちのことを「自由に」やってゆくということ。(住民自治の原則)

(2) 地方が、それぞれ、じぶんでじぶんのことを治めてゆくこと。(地方自治独立の原則)

この二つの原則に照らして、今次の全国一律の合併案は、その強引な手法も含めて、著しく憲法違反の疑いがある。

「市町村合併」は、すぐれて「地方公共団体の組織及び運営に関する事項」に当たる。

「地方自治の本旨」とは、『地方のことは住民が決定権をもつ』ことにほかならない。

自発的な住民要求に基づくならともかく、国家権力といえども一方的かつ半強制的に「合併さ

せる」やり方は許されるべきでない。

第九五条「住民投票」には、住民投票が国会決議に優先することを規定している。

地方の首長をはじめ、議会や官僚までも、住民投票に消極的な態度をとることも、

第九九条「(公務員の) 憲法尊重擁護義務(※注1)」に反する疑いがある。地方公務員といえども、住民の現在と将来に亘る「幸福追求」の課題に、連帯して「憲法的責任」を負っているはずである。

※注1 第九九条 「憲法尊重擁護義務」

「天皇又は摂政及び国務大臣、国会議員、裁判官、その他の公務員は、この憲法を尊重し擁護する義務を負う。」

五、「地方自治」の未来

イギリスの政治家、ジェームス・ブライスは、

「地方自治は民主主義の小学校だ」「近代民主政治」一九二二」という名言を残した。

我が国の地方自治は、まさしく未熟なままに三度目の試練に立たされている。

地方自治体は、少しでも「顔の見える政治」が望ましい。

自由民権運動の福沢諭吉は

国家を一本の大木にたとえると、それを支えるには、

「一条の巨根は幾多の細根にしかず」と、分権で各地に自治の根があるほうが、中央集権よりは国は強いものになると説いている。（『分権論』一八七七・明一〇年）

大正デモクラシーの論客、石橋湛山は次のように述べている。

「地方自治体にとって肝要なる点は、その一体を成す地域の小なるにある。（中略）

地方自治体の政治は、真に住民自身が、自身のために、自身で行う政治たるを得る」（『東洋經濟新報』一九二五・大十四年）

過去の「大合併」は、ひたすら大きくなる方向に強制され続けた。そのために、最も身近であるべきはずの「地方自治」が、「政治がだんだん遠くなる」「苦汁を味わうはめに陥ったのではないか。

かつての「富国強兵」も、「高度経済成長」も、大きくなることばかりが必ずしも人びとの幸福に繋がらない、という歴史の教訓を示している。息せき切って駆け抜けてきて来た二十世紀が、あまりにも多くの負の遺産と課題を残したことに、人びとはようやく気づき始めた。

「モア・イズ・ワース」(more is worse) (もつとはよくない)

「スロー・ライフ」(slow life) (ゆっくり人生)

といったスローガンは、明らかに「価値観の転換」をあらわしている。

「物質的な豊かさ」から「心の豊かさ」へ人びとの関心が移ってゆくとしたら、そのための「住みよい街づくり」への想像力もおのずから湧いてくるに違いない。

地方自治の未来は、「自立」と「独立」の精神にかかっている。地方自治を強化するのは、他
50
の誰でもない住民自身である。私たちのひとりひとりが、私たちの子孫にいかなる未来社会を約
束することができるか、そのことを真剣に考えることが、せめてもの私たちに課せられた責任を
果たすことになるのではなからうか。

【参考文献】

『合併協議会の運営の手引』市町村自治研究会 編

『新潟県市町村合併誌』上・下 新潟県自治行政会 発行

『市町村合併と地域のゆくえ』保母武彦著（岩波ブックレット）

『地方分権事始め』田島義介著

『新・地方自治法』兼子 仁著

その他

風呂敷の裏

しま・ようこ

ただの 一枚の布
何を どんな形にも包んで手渡せる
ゆるやかな 唐草文様

世界が狭くなり 未来が早送りされ
ガキ大将が大風呂敷を独り占めた
トマホークも新型ミサイルも 全ての積み木は俺のもの
切り裂いた唐草文様を アルファベットに並べ替え
同じ積み木を隠す 「あいつ」を やっちまえ！
愛想顔で 積み木を分けてやった日を忘れて

ガキ大将の 大風呂敷が裂けた
「神」のロボットに急変身し
火の鋼に化かした積み木を「あいつ」の領土にまき散らし
世界を 炎の棘にした
ガキ大将の顔色を窺う 小ガキの国で
どんなウソもホントに見える
ウソを競い合う舞台は 千切れた唐草の彼方

だが 小ガキの国にも
炎の棘から 声を聞き分ける耳がある
わたしたちの内なる声のように

―橋を渡るのが怖い
―帰りに橋はないかもしれない（白いターバンの男）

―今死んだら
戦争しか知らない人生になる（赤いセーターの少女）
―絶望と悲しみだけの市民
逃げ出すわけにはいかない（人間の盾Mさん）

ちぎられた唐草を もう一度並べ替えると
ガキ大将の「勝ち負けの天秤」の錆びた棹に
勝って失い 負けて開ける目盛りが読める

だから たとえ「正義」の迷路を縫いくねって
ピンポイント弾がわたしの額を貫いても

ただ一枚の布
未来を手渡せる
風呂敷の裏文字を読み続ける
イラクのウル遺跡の 堅琴の遠い調べを採譜しながら

イラク侵攻戦争に抗議する

前ページの詩は、三月二〇日、「言葉を失った」という詩人、しま・ようこさんから送られてきました。「戦争と地球破壊の二〇世紀」から「平和の二一世紀」になってすぐ始まった有史以来の残忍な戦争。それ以来、みんなデモに集会に、寸暇のない日々。「書く時間がない」という声

の中で、書かずにはいられなかった言葉が続々届きました。それぞれ推敲の余裕もない原稿ですが、溢れる思いは、読者の皆さんの胸中ともひびきあうことと思います。

絵を描く人は絵を。文を書く人は文を。歌を歌う人は歌を。「病床からでもできる運動」が、へあごろです。

言葉に秘められた「影」をお感じになったら、どうかそれを響かせてください。一人から一人へ。知ってる人にも、知らない人にも、海の彼方の会ったことのない人にも、発信しましょう。受信しましょう。その「影響」の大合唱しか、もう地球を救う方法はなさそうです。

文・詩・歌・絵……何でもどしどし送ってください。外

国語のできる人たちで手分けして、かつて他国を侵し、自らも深く傷つき、いま「九条」を持つ日本人の心を伝えます。そして世界の心を受け止めます。この無法な戦争を何としてでも終わらせましょう。

小泉純一郎殿へ

橋本幸子

貴殿と私は同年。生まれた時にはすでにアジア太平洋戦争が始まっていましたね。甘いものはおろか、食べるものもなかった時代によくここまで生きてこられたものと思います。それはたくさんの人びとの「死」の犠牲の上にたっているのです。死んでいった人びと、特に同世代の幼い命に代えて、私たちが平和を守らねばなりません。幸いにして日本には「平和憲法」といわれる「憲法九条」がありま

す。これを改悪しないで、守ることから始めましょうよ。

小泉純一郎殿。この日本人の深い思いを必ず必ずブッシュ氏に言つて下さい。言い続けて下さい。

「貴殿の国のGHQの贈り物、日本国憲法第九条の名にかけて戦争反対！」
(大阪府吹田市)

本土の心ある女性たちへ

桑江テル子

「私の愛するふるさと沖縄が、四たび他国の女性、子どもを殺りくする出撃基地にされようとしていることに、黙

っていることはできません。ブッシュの戦争政策には反対です。これまで、生活や仕事のしがらみで出来なかった一個の人間として、可能なギリギリの行動として、私は九日間の断食座り込みをしています。韓国の反戦・主権回復の闘いが若者を先頭に民族全体のものとして大きく盛り上がっていることに、深く敬意を表します。韓国そして世界の皆さん、決してあきらめず、徹底して闘い抜きましよう。アメリカのイラク攻撃をとめましよう」 (一月十六日)

—これは、一月十三日から二十一日まで、沖縄県浦添市にある米領事館前路上の断食現場から、ソウルへ送った、私のメッセージです。

二人の女子中学生れき殺、無罪！

怒りと恨みに燃えた韓国の人びとは、①判決は無効②犯人の処罰③ブッシュの謝罪④地位協定改正を求め、主権回復まで闘い続ける宣言をし、考えられるあらゆる手段を駆使して闘っています。

私は、十二月十四日のソウル大集会に参加し、オキナワの酷似した状況を報告し、連帯を誓いましたが、不平等地位協定の抜本改正は一步も前進しません。日本政府にその気がないからです。

そのうえ、今また、“戦争中毒”アメリカは、何の大義名分もないままイラク攻撃を準備し、イギリス、日本が追随しています。石油強奪のために、湾岸戦争・経済制裁で弱り切ったイラクの人びとの上に、世界列強が寄つてたかつて爆弾の雨を降らせ、言いなりになる政権に首をすげ替えようとしています。

人間の名において、この行為を止めなければならないと、私は私の意志でハンガーストライキをしました。当事国・53

アメリカの女性たちが声を上げていることは救いです。ドイツやフランス、世界各地で立ち上がっていることが、少ないマスコミ報道でも伺い知ることができます。世界から「おかしい」と目されているのは日本国民ではないでしょう。戦争放棄の憲法があり、曲がりなりにも民主主義体制でありながら、なぜ人びとは声をあげないのか。なぜ怒らないのか。

オキナワで五八年間も起こり続けている米軍による事件・事故・人権侵害・環境破壊を、永田町から遠く離れた小さな島（選挙で票にならない）で起こったことで、痛みを感じ取らなかつた本土の大多数の政治家たち。いや、それ以上に、七五％の基地を沖縄に押しこめてのーのーとしてきた日本政府を私は弾劾します。

本土に住む心ある女性たちよ。民衆よ。ノーと言うべきときが来ています。

戦争ノー、イラク攻撃ノー、米軍基地ノー、加害の島ノーです。戦争中毒症のブッシュはノーです。ブッシュの忠犬小泉と石破はノーです。

（沖縄県沖縄市）

（〇三年二月一〇日）

無数の祖先の声を聴き直しつつ

服部 素

去年の春から、ターミナルで、サイレント・アピールが続いています。「武力で平和はつくれない」の横断幕。私の胸のアピールは、「ダメされないために、流されないうために、悔まないために……有事法制 NO!」。

隣に、捨て犬を連れて「あわれな犬のために」と座っている人に注がれる目と手はあつても、こちらには、あたかも無きが如く……。

戦争は、前触れの足音で防がなくては、と焦りつつ、タマちゃんの世間を眺めてきた一年近くですが、今年に入つては、回を追って一緒に立つ人のほうがふえてきて、そして三月二〇日のイラク戦開始です。人生を終えるまでに、遠く近くいくつの戦争を経なければならぬのでしょうか。

ダグラス・ラミスさんは「誰が物知りであつて、誰から学ぶべきかということに関しても、切り替えが必要です。

この教師／教え子という関係を逆さまにすれば、今まで見

えなかったいろいろなものが『落ちてくる』だろう」。

（『経済成長がなければ私たちは豊かになれないのだろうか』と。まさにそのことが根本問題のように思えます。小さい人、声なき人の声、ネイティブ・アメリカンの口承……。

星川 淳さんは、先史モンゴロイドが、ベーリンジア（ベーリング陸橋）を経て米大陸へ渡ったその人群れの知恵を綴った『一万年の旅路』を訳して、「たぶん、われわれもいま大きな橋を渡るうとしているのだろう。モダン（近代）の大陸からポストモダン（脱近代）の原野へ——（中略）もしかしたらわれわれの前に横たわる（海辺の渡り）は、水没寸前のベーリンジアよりもっと狭く、険しく、渡りおおせる成算の少ない橋かもしれない。だからこそ、二〇世紀末というこの正念場に、無数の祖先たちが見えない手を差し伸べてくれるとは考えられないだろうか。いや、励ましは過去だけでなく未来からも届いているかもしれない。本書の物語からは、遠い過去と遙かな未来を結ぶ人類の集合的な祈りが立ちのぼるようだ。」とあとがきに記しておられます。

かつての「大本営発表」のようなアメリカ製画像の騒音

を消して、このネイティブ・アメリカン口承史を味読しています。この人たちは、七代先の子どものことを思つて事をきめるそうです。私たちは教育基本法改悪、改憲を阻止しなければなりません。なんとしても。

**ただ一人でも
生命が失われてはならない
毎日、写経をしています。**

城内治美

毎日がつらく心痛み、重い何かを背負つて行く日が積み重なつてゆきます。

人間しか持たないと言われる、理性、自己コントロールを、それぞれの国の指導者は、どこかに置き忘れてしまったかのように生命の破壊につき進み、それを「勝利」と呼ぶ身震いがします。

しかし、視点を変えてみたら、アメリカは「私たちの日常生活の中の自分」でもあるのではないでしょうか。

今、問われているのは、争うことより許し認めあつて

お互いを生かして共に生きるといふ生き方です。私たち自身、それを次の世代に伝えてゆくために、しっかりと各自が考え、歩き、その後ろ姿を見せること。それが、いま、毎分毎分、殺されている人たちへの、祈りになるのではないのでしょうか。

日本人である私たちは、核によつて生命を失つた広島・長崎の人びとの思いもこめて、生命の大切さを語り続け、主体性を持つて責任ある自分の意見と行動を取る生き方を、してゆきたい。それが、この戦争を止めることにつながつてゆくような気がしています。

憲法九条を持つ日本は、「決して戦争をしない国」です。

だからこそ、どの国が「戦争」を志しても、「してはならない」と強く制止できるはずです。小泉さんは、世界中のどの大統領よりも首相よりも戦争を止められる条件を備えていたのに、ブッシュさんに盲従し、この戦争を止められなかったこと、とても残念です。それどころか「戦争を支持する」と発言するとは。今こそ「小泉退陣」を迫り、

「この日本」を根底から変えなくては、とおもいます。

私はもちろんデモにも行き、ブッシュさんにも、小泉さんにもアメリカ大使館にも、手紙を書き続けました。そし

て、今は、寸暇を惜しんで写経をしています。戦つて、亡くなつた人、今も戦つている人たちの為に、一日も早く終わることを朝も夕も祈つています。バクダードで「人間の盾」として銃経を続けておられる吉沢上人の祈りに呼応しながら、「上人はじめ、人間が誰一人死んではならない」と。それしかできない無力が悲しいのですが、「祈る」とは、きっと大きな力になると信じます。

(きうち・はるみ 神戸在住)

イラク侵略戦争に想う

山田千代子

「イラクを武装解除し、民主化する」という大義名分のもとに、アメリカは世界中でわきあがる「戦争をやめよ」という声を無視してイラク攻撃をはじめた。

イラク市民は連日の爆撃にどんな思いでいるのか、考えると胸が痛くなる。ヒロシマ、ナガサキを経験した我が国が「戦争はノーだ」と世界に向かって叫ばなかったことが恥ずかしい。

重い気持ちをし少しでも晴らそうと、かねてから案内のあった共同作業所の音楽祭に出かけた。共同作業所で働く彼らは、障害を持ちながら賢明に働き、自立を目指している。彼らの音楽は生きることの大切さを教え、命をふるわせた。重度の障害を持つ私の友人は、演奏の後で全身を振り絞るように「戦争をやめて」と言った。そして全員でピース・イン・ハーモニーをアメリカ、イラクに届くような大きな声で歌った。

戦争は命を落とすと同時に、多くの障害者を生む。いつものことだが、男たちの利権争いに巻き込まれ犠牲になるのは子ども、年寄り、女たちである。

しかし、一方で私たちの周りには戦争賛成と言う人もいることに注目しなければならない。戦争になれば景気が良くなると言うのである。戦後五〇年余、九条という世界に誇れる憲法を守り、平和を最も大切にしてきたはずなのに、このような声が聞こえるのは残念で仕方がない。政治を司る者にとって、最大の課題は国民が安心して暮らせることであり、それは、空気のように、なくてはならない平和の維持以外のなにものでもない。

こんな中で、子供たちは毎日まるで映画を見るようにテ

レビで戦争を見ている。どのような思いでいるのか、大人たちの愚考を悲しんでいるに違いない。

今ほど世界の女たちの力を必要としている時はないのではないだろうか。わたしは地方議員を十年やってきたが、いま世界を変え、日本を変え、地域を変えるのは女しかないとは本気で思っている。

最後に、この戦争を支持した日本につけがまわってこないことを祈るばかりである。

(長野市・市議)

この状況を

私たちの手を変えよう

吉田貞子

二〇〇三年三月二〇日、とうとうアメリカがイラクに戦争を開始してしまつた。「戦争のない平和な二一世紀」の願いが、わずか二年三か月で打ち砕かれた。

いても立つてもいられず、三月二四日仙台での街頭行動に出かけた。そこには、二〇日からハンガーストライキに入つた学生たちも署名活動を行なっていた。お互いのチラ

シを交換しながら、共に戦争反対を訴えた。多くの市民が、年代に関わらず、危機的状況を何とか自分たちで変えようとしている。その日は、弁護士会主催の辺見庸氏の講演会も開催され、千人もの人びとが会場をうめつくし、多彩な反戦行動がなされた。やっと、一般報道もこれらの反戦行動を報じるようになってきた。戦争が起きる前になぜ報道しないのだ、報道の意味は？と、いらだちを覚える。

私は、市議会で「有事法制の慎重審議を求める意見書」を提出したが、議会運営委員会で却下された。それでもあきらめず、有志議員をつのり議員提案したが、八対十五で否決された。ねばった議会質問でも、ヘリポートを持つ公立病院への影響などの危惧を訴え、有事法制成立時における自治体への影響をどう考えるか、市当局の見解を尋ねたが、「議題外」とされ、答弁を得られなかった。二十日イラク戦争開始の報道がなされるや、市は緊急部課長会議を招集し、異例の病院当局者出席のもと、テロ対策、警備体制が敷かれた。戦争を起こさない意思を明確にすることこそが、市民を守る最優先課題ではないかと思わざるをえない。

今、私は春の統一選に向けて、「まちを変える感動を、あなたと共に！」と、市民のみなさんに訴えている。後援

会事務所開きでは、独婦連の「戦争は準備すれば、やって58くる」を引用し、有事法制反対を訴え、前日に出席した幼稚園修了式の輝く子の瞳に應えるため、平和を引き継ぐのが私の義務と訴えた。参加した人びとに、私の訴えは、確かに届いたと思っている。

「戦争をしない一票を私に！」

これが、私の「イラク侵略戦争」に対する答である。
「この日本を女が変わる 地域から変える」メッセージとしての行動と思っている。
(宮城県白石市・市議)

行動でこの悲しみと

憤りに応えたい

志麻愛子

イラクを巡る問題を契機に、昨年末以来、ここ富山県において、これまで声をあげる術のなかった一般の市民たちが、平和を求める活動（ピースウォークや議会への請願など）にぞくぞくと参加しています。自民党王国の富山県議会でさえ、国への平和的解決を求める意見書を採択した

(富山市議会は否決) というのに、翌日、イラク攻撃が始まりました。

まさに世界のルール違反であり、侵略戦争以外の何物でもありません。それを「支持する」という政府に深い失望を抱きました。それでも、戦争被害が拡がるニュースに悲嘆にくれていることはできず、今日もこれからピースウォークに参加します。

(富山市・市議)

世にも恐ろしい戦争物語

谷内清子

今、日本の各地ではヌクヌクと温かい茶の間で、現実の世界で起こっている戦争をゲーム感覚で観戦している。

命の尊さを教えないなら、大人は、児童・生徒にこの恐ろしい戦争にまつわる出来事をどうやって受け止め、伝えられるのか。

人を傷つけ合う戦争、絶対反対！

(富山県議会議員)

日本自身の「対米貢献」を、もつと自覚しよう

星野邦子

正直な感想を述べてみます。

戦後の日本は国連中心の外交で、国際社会に受け入れられてきました。

世界の安全のため、経済のため、日本のできることは大きいはずだと世界はいつも注目しているのに、今回の、国連の枠外で始められた米・英のイラク攻撃に対し、いち早く「支持表明」をした小泉外交は、その期待を裏切るものだったと思います。

確かに北朝鮮の脅威が深刻であり、日米同盟に頼らざるを得ない小泉外交の難しさも理解できますが、かといってアメリカ一辺倒の日本外交では、何のための日米安保なのか、深く考えてみる必要があります。

アジア地域で日本にある米軍基地を作るほどの場所は、ほかでは確保できませんから、安保をやめて困るのはむしろアメリカなのです。

日本の米軍基地はアメリカ本土と同じ規模でできており、自衛隊に守られ、日本の税金で賄われています。湾岸戦争の時、英国は七万人の人数を出して貢献しましたが、日本は、日本の基地からその三倍もの貢献をしたのです。

日本の基地はアメリカから遠い地球の半分を戦うためのアメリカの本拠地、最重要拠点なのです。

しかも、そこは、たとえどこかに攻められてもアメリカからみれば、日本は痛くもかゆくもない外国です。ベトナムへ、ソマリヤへと、小国に脅威を与えて来た米軍の基地を持つ日本は、いつ攻められても不思議ではなかったのです。

それなのに日本の国民は日本全土を賭して貢献しているのに気がつかないのです。気づかせないアメリカが利口なのでしょうか。

今もそれは同じことです。アメリカにとって、それだけ重い立場の日本なのに、なぜ強く主張できないのでしょうか。

本来に世界の期待に応えるためにも平和的解決を目指す努力をやめてはいけないと思います。それが日本外交のすべてなのですから……。

この戦争の陰で泣いている大勢の人たちに早く平和がもどってほしいと願ってやみません。

(新潟県北魚沼郡広神村・村議)

シンブルな事実

綿津陽子

殺人である。

戦争とは罪なき人びとの生活を破壊すること。

人の命を奪うことに大義も正義もない。

大量殺人だ。

どんなに問題があろうと、

命と引き替えにするものは

「解決」ではない。

交わすべきは「武器」ではなく

「言葉」。

民衆は教育や文化で。

政治家は外交で。

六九二人の女の「行動」

小野紀美子

私は独裁者が嫌いだ。第二次世界大戦中、ムッソリーニのイタリアとヒトラーのドイツで暮らし、独裁者に怯え、服従する国民の姿が、子供心に焼き付いているせいだ。

イラクの国民も北朝鮮の国民も、実は独裁者に疑問を持つていた。ただ権力側の締めつけが強過ぎて、自由に口を開けないのだ。タリバン政権下のアフガニスタン国民のように。戦前戦中の日本人のように。

だから、今、ブッシュ大統領が、何が何でもイラクを攻撃しようとする姿勢に反感を持つ。

私と同じ思いの人は多く、暮から正月にかけてたくさん電話、FAX、お便りで「アメリカの我がまを抑える方法はないだろうか」「日本はアメリカのお先棒担ぎをすべきではない」等のご意見や、「私たちでもできる運動はないだろうか」「民主党が行動を起こすなら協力したい」等の問い合わせを頂いた。

しかし残念ながら民主党は、党大会を目前に控えている。しかし、まったく動きがないので、とりあえず、私が参加している日本ペンクラブの「いま戦争と平和を考える集い」への参加を呼びかけたり、新聞に投稿することを勧めたりした。でもこれではいかにも歯がゆく、もどかし、個人としての限界と諦めかけていたときのこと。

投稿誌『わいふ』編集長、田中喜美子さんからFAXが届いた。「平和を願っている方たちへ」と題するその文章を要約すると、次のような内容だった。

「戦闘が始まれば、イラク全土は阿鼻叫喚の巷となり多数の血が流され、命が奪われる。一人の独裁者を追い落とすために、イラクの人びとにそこまで犠牲を強いることが許されるのか。アメリカの目的が世界第二位の埋蔵量を誇るイラクの石油にあることは、いまや周知の事実だ。

一方、イスラエルは国連決議を度たび無視してパレスチナに侵攻さえしているが、アメリカは非難するどころか支持している。二重基準というほかない。日本は、なぜこのような戦争を支持するのか。私たちも黙っていないで、声をあげよう。一人では無力でも、力を合わせれば何かができる。自分たちの願いを新聞の意見広告として、多くの人

びと呼びかけたい」とあり、故三木武夫総理夫人 三木睦子さんを代表者として、田中喜美子さん等十四人の呼びかけ人の名前が並んでいた。全員女性だった。

意見広告のアピール文は「憎しみと暴力の連鎖を断ち切り、辛抱強く平和への道を探ろう！ 私たちは日本がアメリカのイラク攻撃に加担することに反対です」というもの。参加費は、一口三千円。まさに「待ってました」という感じだった。これなら、デモ行進は体力的に無理という高齢者でも「行動」できる。私は早速、呼びかけ文をFAXで多くの友人へ送った。反響は物凄い。五九二人の思いが結集し、一月二十九日、朝日新聞の十八面に全面広告が掲載された。

面白いものでこの頃から、マスコミも、アメリカのイラク攻撃に反対する世界の動きを報じ始めた。

驚いたことに米国内でも、ブッシュ大統領の与党共和党員が「イラク問題で意見を異にする共和党員」と題する意見広告を、ウォールストリートジャーナル紙に掲載し、更にバチカンでは、ローマ法王が定例の外交教書演説で「戦争反対」を訴えた。

こうした世界の動きの中、日本の首相は何を思ったか突

然の靖国参拝。イラク以上に難しい独裁国北朝鮮について62
周辺の韓国、中国とそれこそ腹を割って話し合うべきとき
に、相手の神経を逆なでする突発的行動……ああ心配だ。
皆さん、次の選挙では「一票一揆」で政権交代を実現しまし
しょう。「投票は銃弾より強し」（東京・新宿区・区議）
（『労働レーダー』二月号より転載）

サダム・フセイン大悪魔の呪詛から離れてほしい。

阿部 政雄

アラブ問題の研究者です。

小生は、凶暴な怪物のようなブッシュ政権とシオニスト国家イスラエルに敢然と抵抗するサダム・フセイン大統領を指導者とするイラク国民の戦いは、新しい人類の未来を開く重要な戦いの歴史の一ページだと思っています。それは、次第に明らかになっていくことでしょう。

小生は、これまで長い間、反戦の運動にひびを入れたく

ないこの思いから、なるべく、サダム・フセインを悪魔だの冷酷な独裁者などと簡単にレッテルを貼っている人びとの批判を差し控えてきましたが、この頃、アメリカが「イラクの民主化」を唱え始めてから、それこそ、ネコも杓子も轟々たるサダム・フセイン非難の合唱を行なっていることに悲しい思いがしています。（もちろん、その論者の多くがアメリカに同調するために言っているとは思いませんが）とりわけ、進歩派を自称する人びとの中にそうした人が多いのは、愚かしいと言おうか、嘆かわしいと言おうか、全く西アジアアラブの現代史を理解しない、観念論です。

例えばサダム・フセインは、独裁者で国民を弾圧しているということを吹聴する人びとがいます。しかし、どういう理由で、ある特定の人物や、グループが現政権の取締りの対象となったかということを具体的に提示しなければ、その是非を論じることではできませんし、誤った結論をだしてしまう危険を内包しています。

また、イラクは御承知のように、アラブ諸国の中で際立って政教分離の国です。

女性の活動も活発な国です。

しかし、イスラム原理主義の立場に立つ人びとには、こうしたサダム・フセイン率いるバアス党の政策は、西欧かぶれの墮落した背教徒として断罪に値する悪党どもとなるわけです。

イラン・イラク戦争の起きた一九八〇年四月にムスタンシリーア大学で発生したイラクのイスラム原理主義のダワ党による現副首相のタリク・アジーズ外相の暗殺未遂事件で、同外相を負傷させ、数人の学生が殺された事件がありました。たしか、その学生たちの葬儀にも爆弾が投げ込まれたと記憶しています。

これは、それぞれの宗教は大事にするが（現にサダム・フセイン大統領も敬けんなイスラム教徒です）、特定の宗派が国の政治に関与することを断じて許さないというバアス党の政策は立派だと思えます。

中国や韓国の厳しい批判などどこ吹く風かと、靖国神社に参拝する時代錯誤のどこかの無定見首相とは、比較にならない、近代的な政治なのです。かつて、ナセル大統領が

エジプトのムスリム同胞団を厳しく取り締まったのも、ナセルのセキユラリズム（非宗教主義）のため、暗殺されようとしたためです。

自分の国を立派な近代的、民主的国家とするためには、命がけの戦いになるのです。

サダム・フセインを悪く言う人びとは、こうした面など一言も触れません。

イラクの南部はシーア派が多いから、反サダム・フセインだとか、イラク政権はスンニー派が独占しているとか、こうした宗教を過大に持ち上げる態度は、帝国主義的「分割支配」に手を貸しているに過ぎません。自称進歩気取りの知識人が無自覚に文章にしたり、発言しているのを見聞きする度に、もっと責任ある態度をとってほしいと叫びたくなります。

日本で、浄土宗がいいとか、日蓮宗が正当だとか、カトリックこそ、プロテスタントこそ真の宗教だと主張するのと変わりません。それぞれの宗教には立派な教えがあると、思いますし、イラクの中でも、それは確立しています。

本当に、知識人やマスメディアの責任は大きいと思います。64
す。かつて、日本と戦う蒋介石をアメリカに後押しされた軍閥の頭目のように印象づけ、中国の抗日運動を匪賊と罵り、朝鮮の解放運動を馬賊の集団だと信じ込ませた戦時中の報道ぶりが、今イランイラク戦争直後から、凄まじい勢いで流布されている「サダム・フセイン悪魔論」の中に、まざまざと再現されているという危険を感じます。

もう少し、世界の現代史の基本を学んで頂きたいものです。

さもないと、本来味方であるはずの人びとがお互いに傷つけあって、弱体化し、凶暴な大国の情報操作の餌食にされてしまいます。

非力ですが、小生が精一杯イラクの現状を伝えたいと持っているのも、こうした仲間討ちに終止符を打ち、アメリカの巨大な産軍複合体と石油資本の営業部たるブッシュ政権とパレスチナ人民の解消を狙うイスラエルという凶悪の根源に対する共同戦線を樹立して、この元凶を倒さねば、私たち人類の未来はますます悲惨なものになってしまおうと痛感するからです。

今こそ「市民の論理」を構築して 自国の政府に迫ろう

シャロン・キンセラ

英・米も独・仏も、立っている基盤は同じ

「イラクが悪い」という理由で、戦争が始まりました。しかし、戦争の原因は、イラクの大量破壊兵器とも、イラクの市民の政治状況とも、石油とも、無関係です。

はつきりと言えば、米国の指導者の権威と指導力が低下したからです。政治と市民の関係を、生き生きとした好ましいものにしたいというアメリカの指導者の願望が、この戦争の引き金です。

フランスやドイツは、米国に反対しましたが、構造としては米国と大差がない。ただ、フランスやドイツの指導者は、反アメリカの国家主義に立って、「戦争反対」を打ち出したほうが、政治と市民の関係が良くなると考えた。その認識の差だと、私は思います。

今の世界は、「いい国」と「悪い国」に二分されたよう

なパターンになり、アメリカの中流階級や都市に住む知識人までが、「フランスやドイツは良い国」と思っているように感じられますが、フランスもドイツも、「イラクに対する制裁は必要」と言い続けており、その意味では米国と大差がありません。世界は「やさしい国」と「厳しい国」に二分されているわけではなく、その意味では、ドイツもフランスも、本当の意味で「やさしい国」ではありません。小泉さんと変わらない。ユーゴスラビアに対する国連の攻撃的な行動史に示されたような『本当の状況』を厳しく批判していないので、イラク人の役には立っていません。

「イラクが問題ではない」とすると、
戦争の中心は何ですか

私は、世界のいろいろな国に暮らしている人が、自分の無力さをはつきりと認識し、自分の態度を変えることだと思っています。

「政治と市民が結びついていない」と、「政治」の側では考え、強いメッセージを出しました。それに対して世界の各地で、デモや集会が次つぎに打たれています。それは

まだ「政治」をゆるがすメッセーじにはなっていない。強いメッセーじをどう構築すべきかが、「市民」の課題です。

私はもちろんこの戦争には反対です。「戦争支持を打ち出した英国」の市民として、私たちのメッセーじが政治を変える方法を考え、行動します。各国の指導者のメッセーじを分析して、それを超えるメッセーじを出します。

我われは無力な人間ではありません。指導者のメッセーじをまるごと飲み込むのではなく、断固拒絶しなければなりません。絶望と受け身からは、なにも生まれません。

(英国人・大学社会学部助教授「日本女性の文化」研究家)

とにかく行動を

とにかく言葉を

斎藤 美栄子

いま自分に何ができるかと考えて、『あごろ』281号を本屋さんに置いてもらおうと思いつきました。

本屋さんを六軒まわりましたが、一番期待していた小さな本屋さんにはつぶれていました。あとの五軒は

・この手の本は売れる見込みが少ない。
・たくさんの本の中でまぎれたりして管理に責任がもてない。

などの理由で、どこにも置いてもらえませんでした。

確かに本屋さんにはスペースのゆとりがなく本が山積みになっていますし、千円くらいで、写真入りなどのイラク関係の厚い立派な装丁の本もでていますね。『あごろ』はこの書店で扱っているのでしょうか。

そこで、戦争反対のメッセーじを書いてみました。

つたない詩ですが、生まれて初めて書いた詩です。「私のできる反戦運動」として、お送りいたします。

*

私の机上の写真立ての中で、初孫のつぶらな瞳がじつとこちらを見つめている。あどけないひとみに、不安の色が見えてくる気がする。孫がこれから生きていく地球を考えているうちに、いろんな思いがあふれてきた。

言葉を話せない幼子でも、

澄んだ瞳で問いかけてくる。

「これはいいこと？わるいこと？」と。

おとなは答えてきた。

人を傷つけるのはいけない。

殺してはいけない。

ひとつの命はかけがえのないもの。

子供どうし暴力はいけない。

先生から生徒、親から子への暴力も、
家庭内の暴力も犯罪。

話し合いがつかないときのために

法律、議会、裁判がある。

国同士の話し合いには国連を作った。

人間が生み出した平和のための知恵だ。

子供たちよ、その道のりの歴史を学べ

社会、公民、法律を学べ

地球上のみんなと話すために言葉を学べ

人を助ける医学を学べ

全ての学びは平和と幸せのため

戦争が始まった。

武力の強い国が勝って、

みせかけの平和と自由が戻るかもしれない。

日本はその恩恵を受けるかもしれない。

どうしようもないときは殺してもいいの？

理由があれば力づくでもいいの？

いいえそれは間違い。

戦争すれば、

医者が一生かけて救う命より多くの命が

失われるでしょう。

戦争が終わっても、

どれほど多くの人たちが、

悲しみの中で生きることか。

悲しく怖いことはもつとある。

たとえ戦争に勝ったとしても、

やつぱりこの世は弱肉強食さと、

あきらめムードが地球を包み、

歴史がスタートに戻るでしょう。

だれもが動物の性に戻り、平気で暴力を振るうでしょう。

いいのさ理由があるからと、

テロも争いも続くでしょう。

そして世界の子供たちが、

自分のわがままを通し、人を従えるという目的のために、

ようし、とばかりに、頭と体を鍛え、

武器を備えて強くなることを目指すでしょう。

いいのさ理由があるからと。

こんな後遺症の残った地球に、

本当の平和や自由が来るのでしょうか。

だから、

テレビに釘付けになり、

いつもよりずっといっぱい新聞も読んで、

必要な戦争もあるというたくさんさんの意見も知ったけれど、

幼子の、汚れ無き瞳の問いかけに、

私ははつきりと答えたい。

どんな理由があろうとも、暴力、戦争は間違いです。

ドイツに学ぶ

奥平せい子

三月二二日グリーンピース・ジャパン主催「ドイツに学ぶ原発をやめる道」コストの視点から考える」という講演会に出かけた。

ドイツ政府が〇二年二月「脱原発法」を施行し、二〇二一年全廃の見通しのもとに段階的に着手していることは新聞紙上でキャッチしていたが具体的には把握できていなかった。

荻野アンナ氏が取材した電力会社の広告などはデカデカと目につくのに、私たちがほんとうに求めている原子力情報紙上になかなか現れてこないのはなぜだろう?!

講演会は私の期待にしっかりと応えてくれた。ドイツ市民の優れた実行力と未来への抱負を生き生きと反映させている。

三月二六日付朝日夕刊にギンター・グラス氏がイラク戦争に対してのエッセーを寄せていたが、その中で、自国の首相、外相に「彼らは全ての内部からや外部からの敵視

や中傷をものともせず、信頼できる姿勢を貫いてくれた」と謝意を表していた。

私たちが自国の代表者に怒りの批判を向けざるを得ないのと、何という対比だろう。

エネルギー政策もまさに然り。

日本政府は、世界の世論に背いて原子力推進強化策を法的にも押しつけており、現実の問題は危険を孕んだままである。

後援者クリスチャン・キュッパーズ氏（エコ研究所原子力部門）によるとドイツ国民の六〇パーセントが、「原発ノー」の意見を持っているので、着実に施策は拡がっており、ヴァッカースドルクの核再処理施設はほぼ完成しているのを中止、自動車内装置部品や掘削機メーカーの工場に変身し、雇用率は再処理施設の予定を上回っているという。カルカーでも高速増殖炉の操業をさせず、遊園地「核と水のワンダーランド」の建設地として利用している。

いま、大変な問題になっている六ヶ所再処理施設の試運転を阻止し、日本脱原発の気運とする大きな転換をできないものだろうか。

（東京・調布市）

市民の胎動

綿津靖子

なんとしてでも「イラク攻撃」を止めたいという思いで、非力ながら反戦デモに参加してきた。

だが、そこに集まる人びとは一様ではない。

気軽に参加した人。

好奇心でいっぱいの人。

思いつめて、時に折る思いで足を運んだ人。

家族連れ。

友人と一緒に。

ひとりで。

声を上げ、行動する人びとの形や動機は実にさまざまだ。

世界同時の反戦デモを可能にしたのは、無論、インターネット等の情報によるところが大きい。しかし、それだけだろうか。

私はピースウォークの中で、ゆっくり、だが着実に育ちつつある、市民の胎動をずっと感じてきた。

*

エゴをむき出しにした国家間の利害の対応の枠外で、互いに手を結び合う地球人は、今後、戦争を回避に向かわせる唯一の力になり得るのではないだろうか。
イラク攻撃は始まってしまったが、この萌芽は何人もけして阻止できない。

私は「ノー」と言う

柳澤つや子

『どうして戦争をはじめたの?』（青木みか編集・風媒社）の第九章の最後に、一九一八年生まれの森田右著者が、大学のクラス会で友人と交わした会話がある。

『（友人）「考えてみるとわれわれは日本の一番よい時期を生きてきたのかも知れないね」。（私は）「一方では、一番わるい時期も生きてきたよね」。

「一番わるい時期」とは、個人の思想、言論、信仰等の自由を「治安維持法」によって奪われ、「国家総動員法」によって選択肢はただ一つ戦争加担を強いられたこと。

戦争に「ノー」と言えなかった太平洋戦争の狂乱時代で

ある。

「一番よい時期」とは敗戦後から現在に至るまでで、経済的に豊かになったこともあるが、個人の自由が尊重され、何よりも世界に類のない平和憲法Ⅱ第九条「戦争放棄」が守られていること。言いかえれば、日本は一九四五年敗戦以来一度も戦争を起こしていない世界唯一の国なのである。これからも永遠の平和を守り続けなければならない。そして何百万人という多数の犠牲を強いられた人たちに報いるためにも、「ノー」と言い続けなければならない。

（あこらウイン）

英米のフェミニストに 個人的な対話を繰り返そう

しま・ようこ

ついに、ゴウマンな大男の賭けによって、第三次大戦の潜在的引き金になりかねない「秒針」へと動いてしましました。心どころか、身体ごと痛みます。

三十年来の友人 Sheila（シーラ）と手紙と電話のやりと

りを続けています。

もちろん彼女は反戦側です。が、“どんなに正当と自分が思う理由があっても”のところの受けとめ方が、微妙にずれています。

草の根同士のやりとりを決してやめないとこの重みを感じています。

USAには日本の小男“Koizumi”の姿勢しか、伝わりにくいのが現状です。

女たちの持続するpeacefulな動きとして、外国に住む自分の個人的な友人に、“No any war, by any reason”のメッセージを送り続けることを、雑誌媒体としての『あこら』にのせてくだされば、と思い、このFAXをお送りし

ます。

翻訳が大変な方は、往復ハガキに日本語で数行以内のメッセージを『あこら』にお送り頂き、復信に翻訳を試みて本人にお返しし、そのまま封筒で友人に送って頂けば、それほど大変にはならないことでしょう。(私は専門にはできませんが、素人としてご協力します。)

まず地元の葛飾の女性グループで始めようと思っ

ています。個人的なやりとりを通して、わかり合うことの重み。フエミニズムということばが不要なほどに、フエミニストの実行行為になると思えますので。

『敗北の豊かさ』からの出発

一五〇〇円

——「津軽」で鮮烈な民主主義教育を受けて

しま・ようこ

敗戦の年秋から弘前中央高校卒業までの八年間、弘前で受けた教育と暮らしを記憶に沿って検証し、その社会的・政治的意味を問いかける、草の根からのメッセージ。

しま・ようこ

詩集 北の方位

二〇〇〇円

谷 敬

詩とエッセイ

光、そして崖

二二〇〇円

津軽書房

〈価格税別〉

弘前市亀甲町75

TEL 0172-33-1412

FAX 0172-35-7951

選挙も戦争も「消費」にするな

こひら ももえ
小平百恵

(毎日新聞社会部記者)

米英のイラク攻撃が、いよいよ始まった日。知人が驚く、ほどふさいでいる。ふだんは、おしゃべりなのに口数も少ない。首都高のインターチェンジの表示を見上げながら、やるせなさそうに言う。

「こんな日でも行楽地へ向かう人の車で高速は渋滞だ……」

世論調査の結果、国連決議なしのイラク攻撃に国民の多くは反対だった。

「湾岸戦争とは違うのに。コイズミでもだめつというの決定的になったね」

党内基盤が弱く、高い支持率が頼りだった総理大臣も、世論と反対の選択をすることを見せつけられ、厭世観に近い心もちになったという。ちよつと、ナイーブすぎる反応だが、政治に期待も薄ければ、関心も低いという自覚がある人だけに、自分に輪をかけて期待も関心もない人たちが、ことのほか多いのにもショックを受けたようだ。

「だから、選挙に行つて、きちんと選ばなきゃいけないの。そしたら世の中は変わるかもしれないでしょ」

芸のない言い方をするしかなかったが、この日ばかりは、胸に残してくれたようだった。いつもは、この手の「正論」にうんざりしているのに。

政治への無関心、投票率の低下は深刻だ。無関心派が圧倒的に多い首都圏の県知事選では、全国最低の投票率を更新しないかと、そればかりに気をもむ。投票に行かない人が「敵」に見えるくらいで、「行かない」と聞くと正論をはいてうんざりされる。有権者として正論を信じたいたい気持ちとともに、選挙報道に携る人間の「私憤」に近い思いがある。

「記者の書くこと読まれてナンボ」と言われるのが、メジャー紙の宿命。関心が低い選挙を取材するのは、正直、むなしさを通り越して苦痛に近い。

この欄に登場してなんてんだが、私は自分のことをジャーナリストとは怖くて言えない。伝えたいことや伝えるべきことより、世の中の関心に重きを置いてしまうタイプの商業記者だと自覚しているから。

現在、都知事選を取材している。前回選挙の報道量の多さと世の中の関心の高さをうらやましく思う反面、その「罪」を考えるようになった。現職の突然の不出馬宣言から始まった前回は、まさにドラマ的展開の連続。メディアに露出する候補者たち、繰り返されるテレビ討論に、選挙権のない都外の人たちまで熱心に展開を見守った。ただ、名前を連呼するのにあきあきしていた有権者の関心は、おのずと高まった。

一方で、選挙がメディアを通じて消費されるものになってしまった感じた。選挙は一人一人の思いが風になり、流れを作る政治参加の機会、まさに創造するものだと思うのだが。

「風」だよりの選挙でも有権者が「風」を作る創造型なら関心が続く。だから「ダメ」を押されたり、期待に届えたと評価されたりして支持率が上下する。消費型選挙は投票した時点で「あー面白かった」と幕が下りてしまう。四年後に幕が開くとき、幕間におこった四年間の評価より、「前回、面白かったのにねえ」なんていう声しか出なくなってしまう。

消費型の後にやってきた今回都知事選の関心の低さに、やりきれなさを正直、感じているものの、報道意欲を失ってはいけなさと自身のお尻をたたいている。関心をただでさえ持つてもらえない中二階の都道府県政にとって、選挙は数少ない大事な機会だ。それを消費にした片棒を私たちが担いだからだ。同じ側面が、戦争報道にもあると思う。戦争を消費にする片棒を担ぐことがあってはならないと肝に銘じ、選挙の争点として、きちんと、位置付けている。

(三月二四日)

語りかけたいあなたへ 51

大里知子

夢のまた夢

連日、寒さと雪が続いて心まで凍りつきそうになる。

でも暦の上では立春を過ぎ、毎日一分ずつ日足がのびることに、かすかな喜びを感じている。私は、また母に『あと、ひと月たてば春になるから』と、昨年と少しもかわらない言葉をかけてしまう。ほんとうは、三月になっても雪と寒さは、延々と続くのに。

よく考えてみたら、母をその場しのぎにだましているような、うしろめたさも感じる。

氷点下何度という寒い日や大雪の日など、私も全身がコチンコチンに固くなつて圧迫感さえも覚えて苦しい。そんな時テレビの気象情報を見ると、冬の今頃の沖縄と秋田とは二〇度以上の温度差がある。

その温度差を見て、寒い間は台風も来ない沖縄に住み、春になったらまた秋田に戻って来るという、そんな生活ができればいいだろうかと思ってしまう。かならずしも、沖縄でなくとも太平洋側の温暖な地で、冬の間は過ごせたらと考える。でも、どこに暮らすにしても住居費や生活費がなければいけないわけで、何をするにも簡単にはいかないことはわかつている。

先日、不動産会社に勤めている知り合いに聞いた話によると、今、そんなに大きくないマンションでも、三千万円、四千万円が普通の相場という。

そういえば方々で、マンションを買った、一戸建てを建てた、と聞くことも多い。よく、そんなお金があるものだと感じしてしまう。

もちろん、支払い方法は長期のローンとかいっばいあると思う。

でも私は、どこかに勤めて収入を得ているわけではないから、とりわけそんな感じを受けてしまふのかもしれない。

私が自分で、何千万ものお金を自由にできるということは、今でも、また、これからの人生にとうとうてい無理なことで、夢のまた夢にすぎない。

こんなわけで、沖縄に冬の間転居することも太平洋側に住むことも、すべては生まれ変わってからということになりそうだ。

(Eメールアドレス fussen@abeam.ocn.ne.jp)

『敗北の豊かさ』からの出発

一五〇〇円

——「津軽」で鮮烈な民主主義教育を受けて

しま・ようこ

敗戦の年から弘前中央高校卒業までの八年間、弘前で受けた教育と暮らしを記憶に沿って検証し、その社会的・政治的意味を問いかける、草の根からのメッセージ。

しま・ようこ

詩集 北の方位

二〇〇〇円

谷 敬

詩とエッセイ

光、そして崖

二二〇〇円

津軽書房

〈価格税別〉

弘前市亀甲町75

TEL 0172-33-1412

FAX 0172-35-7951

ついに開戦イラク侵略戦争

数千万の人びとが史上初の大規模デモを世界各地で展開、米・英は国連での可決は不可と読んで、決議案を提出しないまま、三月二〇日、ついにイラク侵略を開始。二一世紀に託した平和の夢は粉碎された。

連日の非情な攻撃はテレビで全世界に放映され、衝撃を与えている。

世界最大の「大量破壊兵器保有国」米国は、イラクに對し、湾岸戦争で問題になった劣化ウラン弾を使用したことを発表した。現在までイラクからは、「大量破壊兵器」は発見されていない。

寺沢上人「人間の盾」に

湾岸戦争に際し、世界の平和活動家とサウジ・イラク国境にピース・テントを張って人間の盾となった寺沢上人は、今回もバクダードの「人間の盾」に参加、連日読経して平和を祈っている。日本人として最後に残った五人の一人。

例年になく燃える統一地方選

四年に一度の統一地方選。投票日は、四月十三日が四都道府県と十二政令指定都市の首長と議員、二七日が政令指定都市以外の市と町村。米国のイラク侵略戦争をいち早く支持した政府に対する怒りと失望を、地方選ではね返したいとの思いも強く、日本列島が燃えている。

女性道府県議員の立候補は、三八二名。初めて一割に達した。知事選にも過去最高の八名の女性が立つ。東京は樋口恵子さんの出馬でエキサイト。ババア発言、イラク侵略支持の石原知事を追い落とせるか、厚い保守のネットワークに、女性たちが連日体当たりしている。

教育基本法改悪へ中教審答申

中央教育審議会（鳥居泰彦会長）は、三月二〇日、教育基本法「改正」案を、遠山文科相に提出した。

現行法は一九四七年、戦前の国家至上主義的な教育の反省に立ち、「個人の尊厳」や「真理と平和の希求」を掲げ

て、「教育の憲法」と位置づけられてきたが、「最近の社会の退廃は愛国心と公共心の欠如による」とする保守の流れの中で、愛国心・公共心の涵養を軸に討議が重ねられ、昨年十一月、中間報告を提出していたもの。

一連の保守化の流れの中で、戦後の教育の基本概念を転換することを目的としたこの提案は、教育界はじめ各界から強い抵抗が続けられたが、中間報告のうち「宗教的情操の涵養」だけは除外された。文科省は開会中の通常国会への提出を目指し、改正法案の策定作業に着手しはじめた。

病児保育と職業訓練援助を

〈しんぐるまざあず〉が母子家庭実態調査

NPO法人〈しんぐるまざあず・ふぉーらむ〉は、「母子家庭の仕事とくらし　ひとり親就労実態調査」を行い、三八三人の郵送回答と、一九人のインタビュー結果を発表した。

回答者は八九％が就労しているが、正社員は四六％。四四％がパート・アルバイト・嘱託・派遣など不安定な就労で、平均年収は二四九万円。そのため二五％が副業を持ちパソコン入力、保育補助、スナック等で働き、転職希望を持つ人は三六％。職業訓練を受けてステップアップしたい人が多いが、そのために仕事を休むわけにはいかず、職業

訓練時の経済援助が求められている実態が明らかになった。〇二年八月、児童扶養手当が削減され、厚労省は、母子寡婦福祉法を改訂、自立支援教育訓練給付金制度や就労相談を発表したが、その実施主体となる福祉事務所（全国約七〇〇箇所）で来年度予算措置を講じているところは、ほとんどない。

〈NPO法人あいら〉が抗議

昨年末頃から、「就労支援ということでは〈あいら〉にし込んだら多額のお金を要求された」などの苦情が、〈あいら〉事務局に相つぎ、調べたところ、昨秋〈NPO法人あいら〉が設立され、新聞各紙で広報していたことがわかった。

〈あいら〉の名は七二年みに商標登録しているので抗議したが、「〈あいら〉などという名は知らなかった」の一点張り。円より子さんとの関連を強調されたが、円さんは、深くは関わっていない様子。記事を掲載したある新聞社の記者は、「〈あいら〉は以前取材したことがあり、その時の白井さんの印象と、今回のNPOさんの印象があまりに違うので、不審に思っていた」と話した。厚労省の「ひとり親家庭の母親への就労支援」への助成は、〈NPOあいら〉に集中しているが、厚労省は実態をご存じか？

集会

から

今年も燃えた3・8おんなたちのまつり

三月八日。国際婦人デーに開かれる「おんなたちのまつり」も、今年は十一年目に。ウイメンズプラザを借りきって、今年のテーマは「女たちのファイトVSグローバル化した暴力」。折しもイラク侵略の暴力に怒る女たちの熱気であふれた。ビデオ「PEACE NOT WAR 9・11」のあと、「戦争をとめよう」の講演。辛淑玉さんの「戦争が起きたら日本と朝鮮、どっちを味方しますか」の問いかけがあつたら、『私は殺されます』と答えます」の一言に会場はシーン。劇「笑う魔女」は、人形に、「戦争・日の丸大好き」の魂を入れる魔女たち。爆笑しながらも考えこまされた。九テーマに分かれた分科会は「市民の力で大地震の前に原発を止めよう」など、日頃の学習の成果に、どの顔も充足した顔。この日は日比谷のピース・パレードをはじめ、いくつかの反戦デモに途中から向かう人も緊迫した一日でした。

ふえみん

f e m i n

ジェンダーの視点で社会を眺めとく新聞です。

☎ 150-0001
東京都渋谷区神宮前
3-31-18

☎ 03-3402-3244
03-3402-3238

FAX 03-3401-3453

E-Mail femin@jca.apc.org

URL <http://www.jca.apc.org/femin/>

リニューアルした
「ふえみん」を
プレゼントします。

大阪支局
☎ 530-0041
大阪市北区天神町
3-10-8-404
& FAX 06-6356-0778

★タブロイド判8ページ/毎月5・15・25日発行
購読料：年間9,000円・半年4,500円(送料込み)

自分で
考える人と
一緒に
考えたい。



人間の石原から樋口都政に変えるべく、

毎日ねじりはちまきです。樋口さんの勇

気ある決断を褒めたい。ポランティア

が支える選挙に、皆さんも参加してくだ

さいませんか。

三月二十九日(WINWIN)主催、「女

性知事変える日本の政治」というシン

ポジウムがあり、三人の女性知事の話

を聞きました。知事になってから三人の

女性のやってきたことを聞いて、ますま

す四人目の知事への希望がふくらんだこ

とでした。

(事務局は新宿三丁目。〇三一五三六六

一〇五一五です)

〔編集後記〕

◆何が何でも選挙に間に合わせなくては

と、突貫作業で雑な編集になったのが申

しわけないのですが、とにかく政治の流

れ、日本の流れを変える役に立つように。

その一念でつくりました。(あこらめい

流れを変える側の歴史的圧勝を折ってい

ます。

(K)

◆いても立つてもいられない。私にでき

る反戦運動は？

そう。『あこら』に関わることでした。

印字をする人、組む人、発送の雑務を

する人、電話の応対：すべて「イラク侵

略戦争反対！選挙で流れを変えよう」

につながっている毎日。

メチャ忙しい。でも完全燃焼している

喜び。久しぶりに充実した毎日でした。

一緒に関わる方、どうぞどんどん手をあ

げてください。声をかけてください。(〇)

◆どこの選挙事務所も人手が足りない。

お願いした写真や資料がなかなか届かな

い。公示日は迫る。胃が痛くなる日々。

でもなんとか今日は印刷に。今夜はぐっ

すり眠ります。

(N)

◆ついに猛爆が始まった時、真っ先に思

い出したのは斎藤靖子さんのことでした。

湾岸戦争の実況に、彼女は食事が摂れな

くなり、自傷し、ついに精神病院に。意

識を回復しないまま何年も眠り続けてい

ます。

靖は靖国に通じると、耶寿に変えたヤ

スコさん。(あこら英語教室)の先生でも

あり、運営会議のメンバーでもあり、筋

の通らない話には全身を震わせて抗議し

ていた姿をご記憶の方も多いかと思いま

す。

ヤスコさんほど純粹でも繊細でもない

私は、辛うじて生きていますが、食事が

ノドに通らないことの多い毎日。

純粹で一心に働いている人たちが、爪

に火をともしようにして築いてきた平和

が、こんなに残酷に、こんなに一挙に、

崩されてしまうのか。

生きていたばかりにこんな光景を見る

のが何ともつらい。

世界一歴史の新しい国が、世界最古の

国の、人間も、世界遺産も、破壊しつく

そうとしている。それを傍観するだけの

私たち。文化って、文明って、何だった

のでしょうか。

(千)

「あごら」は、人と人が出会うつひろば――

思い悩んだとき、もつと豊かに生きたいとき、流れを変えたいとき……。心おきなく話し合える仲間がいる――。そんなひろばが、北海道から沖縄まで、いつのまにか広がりました。

雑誌『あごら』を軸に、よりよい自分と社会を目指すゆるやかな連帯。どの部門にも「長」は置かず、自分を変え、社会を変える――「病床からでも参加できる運動」が、モットーです。

会費は月刊『あごら』の誌代込みで月額七百円。一年前払いが原則ですが、ご相談に応じます。入会金は二千元。ハガキ・FAX・メール・電話を頂ければ、申し込みカードをお送りします。

「BOC」のご登録も、どうぞ……

一九六〇年に生まれた「BOCバンク・オブ・クリエイティビティ」は、「創造力の銀行」。あなたの創造力や特技、希望の報酬を「ご連絡ください。各国語翻訳・通訳・企画・調査・取材・編集・校正等の専門職のほか、どんな「創造力」でも歓迎！。ただし、半年以上「あごら」会員の方に限ります。

連絡先

どちらも〒160・0022 東京都新宿区新宿一―九―四 中公ビル
☎03・3354・3941(代) FAX03・3354・9014
Eメール XLV 05467@nifty.com または boc@mb.infoweb.ne.jp

あごら 282号 「この日本」を女が変える 地域から変える ●発行2003年3月20日

●編集 あごら新宿

●発行所 BOC出版部 〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4

●TEL 03-3354-3941(代) ●FAX 03-3354-9014 ●E-mail XLV05467@nifty.com

●定価 本体930円＋税 ●振替 00100-0-5264



9784893061300



1920036009305

ISBN4-89306-130-5

C0036 ¥930E

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4

定価 本体930円+税

企画・編集・翻訳…
何でもご相談ください

創業1960年 —
女性専門職集団
BOC

〒160 0022 東京都新宿区新宿1-9-4

☎03 3354・3941 FAX03 3354・9014

E-mail XLV05467@nifty.com

男女共同参画の
BOCシニアも
スタートしました。

各種プランニング
各種調査

取材・撮影・編集
校正・デザイン・レイアウト
各国語翻訳その他

ベテランの知恵と経験を
お役立てください。

小川みさ子 女ひとり地方議会に春一番

新入り議員の涙と笑



とにかく元気が出る本です。
男社会の中の男社会 鹿児島で、無党派。
しかもひとり。筋を通し、正義を貫き、
バッタバッタと……。
ぜひ読んでください。

サイレントマイノリティのBOC出版部

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-9-4

03-3354-3941 FAX03-3354-9014

郵便振替 00130-3-39331

E-mail boc@mb.infoweb.ne.jp